

南窓

No. 63



南山^中高等 学校男子部生徒自治会

「南窓」六十三号 目次

高等学校の部

前期生徒自治会活動報告

生徒自治会 会長	小林 瞭太(高一A)	1
生徒自治会 副会長	宮部 尊(高一E)	2
生徒自治会 書記	横山 和樹(高一E)	3
生徒会自治会 庶務	中村 琉生(高一D)	4
風紀厚生委員長	小向 黎(高一E)	5
文化委員長	大橋 美輝(高一E)	6
体育委員長	小林 勇翔(高一E)	7
生徒自治会 議長	坂井 映亮(高一C)	8

文化祭

文化祭実行委員長	中武 海童(高一E)	9
文化祭実行副委員長	中島 蓮生(高一D)	10
中学展示パートリーダー	倉科 拓実(高一A)	11
高校展示パートリーダー	小向 黎(高一E)	12
部活有志展示パートリーダー	澁谷 郁音(高一D)	13
舞台パートリーダー	藤田 健成(高一D)	14
受付・案内パートリーダー	山成 俊輔(高一A)	15
装飾パートリーダー	江場 光慶(高一D)	16
情報パートリーダー	江場 哲平(高一C)	17
模擬店パートリーダー	吉田 龍太(高一D)	18
物販パートリーダー	久場 貴司(高一B)	19

クラス展示

J2 A	早川 健(中二A)	20
J2 B	武井 陽翔(中二B)	21
J2 C	恵川 光(中二C)	22
J2 D	本江 兼田 慈英(中二D)	23
J3 A	安藤 涼介(中三A)	24
J3 B	長谷川 陽太(中三B)	25
J3 C	信宗 大輝(中三C)	26
J3 D	大内 一路(中三D)	27
J3 E	稲生 翔太・角岡 龍ノ助(中三E)	28
S1 A	小林 瞭太(高一A)	29
S1 C	古田 智也(高一C)	30
S1 D	川合 虎太郎(高一D)	31
S1 E	江本 翔(高一E)	32
S2 A	白石 京太郎(高一A)	33
S2 B	加藤 日向(高一B)	34
S2 C	本多 直幸(高一C)	35
S2 E	安岡 大賢(高一E)	36

部展示

アマチュア無線同好会
英語部

奇術部

写真部

将棋部

パソコン同好会

美術同好会

理科部生物班

理科部地質班

理科部天文班

歴史研究同好会

有志展示

緑鳥

GLACIES

サンダバ

脱出ゲーム

舞台

ブラスバンド部

演劇同好会

ダジャレンジャー

南山ヲタ芸

オールージュ

大西幸太朗(高二D)	37	浦田征治(中二B)	49	山澄竜成(高二D)	53
中村琉生(高一D)	39	高谷智宏(高一C)	50	坂本孝祐(中二E)	54
山田亮(高二D)	40	古田智也(高一C)	51	桑田大輝(高二D)	55
秋山然(中二D)	41	冬木正陽(高一A)	52	河井順(高二D)	56
高田純兵(中二D)	42			坂井映亮(高二C)	57
中島蓮生(高一D)	43				
須藤晃成(高一E)	44				
高橋孝太(高一D)	45				
藤田健成(高二D)	46				
山成俊輔(高一A)	47				
鈴木朝陽(高二E)	48				

有志演奏

Unconditional

古田智也(高一C)

58

後期生徒自治会活動報告

生徒自治会会長

中村琉生(高一D)

59

SEITOKAI NEWS-FLASH

生徒自治会書記兼会計

宮部尊(高一E)

63

風紀厚生委員長

江場光慶(高二D)

64

文化委員長

大橋美輝(高一E)

65

体育委員長

芝野諒平(高二D)

66

中学校の部

前期生徒自治会活動報告

生徒自治会 会長	名畑 潤一 (中三C)	67
生徒自治会 副会長	澤田 怜来 (中三A)	68
生徒自治会 書記	伊藤 快 (中三B)	69
生徒会自治会 書記兼会計	石崎 隼多 (中三E)	70
生徒自治会 庶務	北川 友太 (中三B)	71
風紀厚生委員長	濱岸 真悟 (中三D)	72
文化委員長	持永 壮志 (中三D)	73
体育委員長	信宗 大輝 (中三C)	74

後期生徒自治会活動報告

生徒自治会 会長	中村 勇太 (中三B)	75
生徒自治会 副会長	曾我 心太郎 (中三B)	76
生徒自治会 書記	宮島 一碧 (中三B)	77
生徒会自治会 書記兼会計	細川 遙希 (中三B)	78
生徒自治会 庶務	池田 晴基 (中三B)	79
風紀厚生委員長	持永 壮志 (中三D)	80
文化委員長	服部 聡真 (中三D)	81
生徒自治会 議長	田中 伸之輔 (中三D)	82

前期高校文化委員会新聞

83

後期高校文化委員会新聞

85

後期高校文化委員会新聞 沖縄特集

87

後期中学文化委員会新聞

88

社会探求ゼミ

現代に通じるアジア主義 飯田 一摩 (高二A)
JALといれからの航空業界 山成 俊輔 (高二A)

96 102

表紙

「桜最前線」

大島 啓登 (高一C)

高等学校の部

前期生徒自治会活動報告

憧れの生徒会長になって

生徒自治会会長 高一A 小林 瞭太

皆さんこんにちは。高校前期生徒会長を務めさせて
いただきました、小林瞭太です。

NZチーム留学から帰国した4月、そこで得たチャ
レンジ精神を絶やさず何かに挑戦したいと思っていた
ところ、宮部君から「お前と俺で生徒会、今期もやら
ん？」と誘われ、僕も昨年生徒会を経験していたので参
加を決意しました。当選したときは、高一であの憧れ
だった生徒会長になれたことに喜びと驚きを感じたの
を覚えています。

今期は、夏の暑さ対策として「体育館にエアコンを設
置し、設置までの間は扇風機やスポットクーラーを常
時使用する」という公約を掲げました。物事を一人で抱
え込みがちな僕ですが、執行部の仲間がサポートして
くれ、とても助かりました。スポットクーラーや扇風
機、エアコンのメリット・デメリットを議会で話し合
い、エアコン設置が最善という結論に至り、要望書を副
校長先生に提出することができました。副校長先生か
ら質問を受けたとき、たじろいでしたましたが、仲間
が助けてくれたおかげで無事乗り切ることができまし
た。また、ほかの公約も進めようと努力しましたが、途
中で目標が不明確になったり、内容が不十分だったり
して、実現には至りませんでした。

この半年間で自分の未熟さを痛感し、人に伝える難
しさなど多くのことを学びました。今後は生徒会とは
別の場で、この大好きな南山をさらに良くしていきたい
です。議員の皆さん、執行部の仲間、先生方、本当にあ
りがとうございました。

前期生徒会活動報告

生徒自治会副会長 高一E 宮部 尊

前期生徒会では主に購買に電子決済を導入すること、体育館にスポットクーラーを設置することを目標に活動しました。

本生徒会は、日頃昼休みに購買部において長い行列ができており、四〇分の昼休みのうち一〇分から十五分ほど購買の列に並んでいることで、実際のお昼ご飯を食べる時間が通常より縮まり、生徒の休息を妨げていることを問題視していました。そこで昨今普及している電子決済の導入を目標に活動しました。導入に関して主に問題になった点は購買部との意見の相違でした。本生徒会は電子決済サービスの導入によりレジでの時間が短縮され、長蛇の列が解消されると考えてお

りましたが、購買部では電子決済サービスの導入によってレジの時間は短縮されるが、そのかわり手動でないことによるエラーが発生した際のバックアップに手動でやるよりもより時間を要するという意見をいただきました。本生徒会の今後の課題は、そのようなエラーが発生した際の解決策を考えていくことだと思っています。

また体育館へのスポットクーラーの設置については、スポットクーラーを設置した際のコストやスポットクーラーを維持する手間などのデメリットと、スポットクーラーの効果などのメリットを比較した際に、先生方と何度も話し合った結果、明らかにデメリットの方が勝るということで決着しました。他にも、今後エアコンの設置が考えられていることからスポットクーラーの導入は延期されました。

生徒会書記活動報告

生徒自治会書記 高一E 横山 和樹

「和樹って、意見をまとめて書けそうだよね」「要約とか上手そうだよね」と、友人から書記に誘われたのが四月だった。僕自身は硬筆や書道を習った経験もなく、達筆ではない。文字は自分と周囲の人が不快なく、読めれば良いと思っている。必要以上に時間をかけて丁寧を書くことはしてこなかった。そんな僕でも、書記として活動することができた。

- ・議会の時に、議員からの意見を黒板に集約して書いた。
- ・議会での板書をラインなどに記録した。
- ・執行部みんなで要望書の作成（体育館のエアコン設置に向けて）
- ・要望書を学校長へ提出 などが活動である。

要望書を提出し、エアコンについては、前向きに考えていると答えて下さったのでよかった。前期の間、友人と共に南山生徒会に関わることでできて、とても嬉しく思っている。生徒会に限らず、仲間と共に協力する時間は、青春の思い出になる。勉強ばかりしていた、させられていた中高生活ではなく、自分がやりたいことを応援してくれた友人や先生方、家族に感謝している。この経験を活かして、この先もいろいろな活動に挑戦していきたい。

— A Chapter of My Life —

生徒自治会庶務 高一D 中村 琉生

こんにちは、中村ルイです。ここに私の人生の一チャプターを記します。

「生徒会に入りたい」——この一言で私は、執行部のメンバーになりました。

今年「New Zealand留学で共に学んだ、小林君が宮部君と共に生徒会に立候補しました。彼らは当選し、生徒会が始まりました。その生徒会の執行部に入った私でしたが、庶務という聞きなれない役職を頂いたため、何をしてよいか分からない時期が当初ありました。

私の担当はエアコン設置の促進でした。エアコンの設置には金銭の問題が絡んでおり、私たちの力ではどうしようもないのでは、と心の底で思っている自分が

いました。そこに庶務という役職の馴染みのなさが重なってしまい、私は泥沼にはまっていました。

そこで大きな転機が舞い降りてきました。「どうにかならないか」と考え、エアコン担当の先生に話を伺おうと思いました。お話を聞いて、すでに設置の議論は進行中で、多くの先生も熱中症対策としてその必要性を感じていると知りました。

したがって私はこのように感じました。今必要なのはエアコンの早期設置をお願いする要望書を出すこと、すなわち「猛暑の時代にはエアコンがないとやっていけない」という生徒の声を伝えることが一番良いと考えました。議会でもこの意見をシェアしたところ、多くの賛同を得られました。

これが私の庶務の時代です。いわばブランクからの脱却のストーリーです。

戸惑いから一歩前進し、行動することで得られる成果があることを学びました。これからも挑戦を続けたと思います。

お読みいただきありがとうございました。

前期風紀厚生委員会活動報告

風紀厚生委員長 高二E 小向 黎

前期風紀厚生委員長を務めさせていただいた小向黎です。任期中の活動について報告させていただきます。

前期風紀厚生委員会の活動はベルマーク集めを実施しました。地球温暖化の影響で年々暑い日が増しています。男子部のアリーナにはエアコンが設置されておらず、生徒たちの中にはこの暑さに疲労困憊してしまい、次の授業に支障をきたしてしまう事や部活動では熱中症になりかけてしまうという事もありました。そこで、ベルマークを集め、スポットクーラーと交換しようという案が浮上しました。ベルマーク回収箱を一人一箱製作し、それを高校の全クラスに配置しました。皆さんにベルマークの存在を改めて知ってもらうことが

できたと思います。目標の点数には届きませんでした。皆さんの自分達でより良い学校生活を送りたいという思いを感じ取れました。今後もこの思いを失くさずに皆さんで共有し合っていると嬉しいです。

前期という短い期間ではありますが、サポートしてくださった先生方、風紀厚生委員会の仲間達、ベルマーク活動に協力していただいた全ての方に感謝します。ありがとうございました。

高校前期文化委員

文化委員長 高二E 大橋 美輝

文化委員長としての約半年を振り返り特に印象に残っていたことは校内新聞の作成と議会のメンバーとしての役割でした。新聞作成では、記事の内容等の工夫を通じて、学校の皆さんに有益で楽しめる情報を提供することを目指しました。諸事情により僕は記事を提出できませんでしたが、書いてくれた文化委員のメンバー、記事をまとめてくださった矢野先生には大変感謝しています。中学生の頃から文化委員をやることは数回あったのですが、委員長と委員の責任感の違いも感じられました。

また、文化委員長として議会に参加し色々な学校をよくするための取り組みに参加しました。議会では生

徒会の公約を達成するために色々な議論を重ね、その中で自分も思い切って積極性をもって発言できました。疑問点をつくただけでなく、よりよく建設的な方向に向かうよう努力しました。

議会、委員会に参加した半年間を通じて、もし今後会議会、委員会に関われるならより一層盛り上げ、学校生活をより良くするために尽力しようと思いました。

幹事の楽しさと大変さ

体育委員長 高二E 小林 勇翔

僕が前期体育委員長を務めて思ったことは、大変だけれど楽しいというものでした。僕は今までに高1の前期と後期も体育委員でしたが委員長になるとその大変さはやはり違うなと思いました。

例えば高1の間では高2の先輩が体育祭のスケジュールをほとんど決めてくれていたので、当日に道具を運んだり、クラスで少し体育の授業前に体操するくらいでしたが、高2になるとイベントのメインを自分たちで決める機会が多くなり、今まで経験したことない事が一気に押しよせてくるような感じでした。一番大変だったのは担当の先生がインフルエンザになっ

らない事でした。

こんな風に変なこともたくさんありましたが、楽しい事もありました。特に体育祭前日に皆で道具を運んだり、当日の朝早くに体育祭について話している時は楽しかったです、今まで計画をたてていた物が目に見えていく感じにすごくワクワクしました。それと同時に去年高1だった時の僕たちより今年の高1のほうがいい気持ちもありました。それでも僕は体育委員長をやってよかったと思いました。やりがいや貴重な体験をさせてもらったことがいつか自分の役にたつ時があるかもしれないので感謝しています。

生徒自治会議長 高二C 坂井 映亮

前期生徒会議長を務めさせていただきました坂井映亮です。活動は毎週月曜日の昼放課に議会議室で行っていました。今年度前期は主に体育館の冷房設備の設置について議論してきました。他には、図書室の漫画を増設することや、購買のタッチ決済についても議論してきました。体育館の冷房設備についてはエアコン、スポットクーラー、扇風機についてメリットとデメリットを皆さんで挙げていきました。エアコンのデメリットもありますが生徒は設置を必要とし、長期的な目で見て必要だと議会で判断しました。エアコン設置を実現できるまでの間は、扇風機とスポットクーラーを増設し、設置を継続することを要望書に書き会長が提出しました。購買のタッチ決済については決済された

お金の最低3%が決済会社に渡されるので、その分購買側が負担することになり購買のものが値上がりする可能性があります。それに購買の方たち自身も消極的で今のままの方がやりやすいとおっしゃっていました。要望書作成まではできませんでした。

今後の生徒会では、もう少し議会を多く開催することと、沢山の話し合いができ、より多くの良い意見が生まれ、一つでも多く公約の実現ができるのではないかと思います。

文化祭

飛翔祭を終えて

文化祭実行委員長 高二E 中武 海童

皆さんこんにちは。今年度の飛翔祭実行委員長を務めさせていただいた中武海童です。まずは、たくさんの方に支えてくださったおかげで無事に飛翔祭を終えられたことに感謝申し上げます。早速ですが、僕が飛翔祭で感じたことを話していきたいと思います。正直選挙で受かってからは、もちろん嬉しい気持ちでいっぱいだったのですが、刻々と近づいてくる飛翔祭の前にして責任感とか、プレッシャーだったりで不安な気持ちもありました。でもそうやって不安になっていた時に実行委員会の仲間だったり友達が励ましてくれたのはもちろんのこと、巡回で全校を回った際に皆が目を

輝かせながら作業している姿をみて、こんなに皆が楽しみにしている飛翔祭を失敗させるわけにはいけないと奮起して頑張ることができました。本当に当日を迎えるまで実行委員会含め全校皆が大変だったと思います、ですがやはり飛翔祭当日の様子を見て今までの苦労はこの日のためにあったんだと思いましたし、この飛翔祭の実行委員長を務めることができて本当に良かったです。皆さんに見せて頂いた景色は一生の宝物です。改めて、一緒に最後まで支えてくれた副実行委員長の中島君、実行委員会みんな、そして、全校の皆さん、頼りない委員長で迷惑もかけたかもしれませんが本当にありがとうございました！

副実行委員長の活動を終えて

文化祭実行副委員長 高二D 中島 蓮生

文化祭実行委員会を運営するにあたって目標を立てていました。生徒ならではの視点を活かし、昨年からの改善を図り、今までの飛翔祭の経験も取り入れることでした。この目標はしっかり達成できたと感じています。今年度は多くの変更を実現することができました。変更点として、電子パンフレットだけでなく紙のパンフレットも用意し、投票も紙でできるようにしました。また、脚立の新規購入や段ボールカッターの大量導入、クラス表彰の中学部門と高校部門の設置、段ボールの増量、展示面談をクラスだけでなく部活でも実施しました。周りのパトリダーたちに支えられたおかげもあって、無事2日間飛翔祭を開催できました。この実

行委員メンバーと10ヶ月間活動できたことを誇りに思っています。実行委員会のリーダーとして素晴らしい活躍を果たした中武君や、それぞれ素晴らしいアイデアで飛翔祭をよりよくしてくれたパトリダーや副パトリダーのみなさん、実行委員として飛翔祭の盛り上げてくれた85人、本当にありがとうございました！

中学展示 パートリーダーとしての経験

中学展示パートリーダー 高二A 倉科 拓実

中学展示パートリーダーとしての経験は、非常に価値あるものです。このことは、私が今年度行ってみて改めて感じました。そして、次のリーダーに最も伝えたいことは「チームワークの重要性」と「挑戦する楽しさ」です。

リーダーとしての役割は、単に指示を出すだけではなく、一人ひとりの意見やアイデアを尊重し、全員が協力して目標を達成する環境を作ることです。最初の集まりから文化祭当日の仕事まで、実行委員全員の努力が結集されます。その過程で意見の対立や困難に直面することもあります。対話を通じて解決し、互いの強みを引き出すことが大切です。

また、新しいアイデアを考えることや、未知の領域に挑戦することの楽しさを実感してほしいです。失敗を恐れず、挑戦する心を持つことで、より人として成長することができます。

最終的には、展示が無事に終わった時の達成感や、来場者からのうれしい反応が大きなやりがいになります。この経験を通じて得られるスキルや知識は、これからの人生で役に立つと確信して言えるので、ぜひ行ってみてください。最後に、一年間一緒にやり切ってくれた実行委員の皆さん、ありがとうございました。

高校展示パート活動報告

高校展示パートリーダー 高二E 小向 黎

今年度の展示パートは高校部門、中学部門、部活有志の部門に分かれました。高校展示の仕事内容は高校のクラス展示申込書の確認、各クラスへの面談、文化祭前日と当日に申請書通りに実行されているかの確認等です。

僕がパートリーダーとして最も重要視したことは、老若男女問わず来場された方が安全に展示を楽しんでもらうことでした。文化祭前日は下校時刻ギリギリまで準備や各クラスの展示の点検をしましたが、やはり当日は何が起こるのか分からず落ち着きませんでした。実行委員のメンバーで当日も注意深く見回りをし、その結果、文化祭を安全かつ大成功で幕を下ろすことができましたと思います。パートリーダーに就任した直後は昨年度実行

委員に携わっていない身だったので右も左も分からない状態で不安でした。パートリーダーの仕事を完遂することができたのは、多くの人の助けによるものも大きいです。そんな僕でもできたので、もし来年度やろうか迷っている人がいたら参加したほうが絶対いいです。

支えてくださった先生方、実行委員の仲間達、文化祭に協力していただいた全ての方、来場してくださった方に感謝したいと思います。ありがとうございました。

やりたかった実行委員

部活・有志展示パートリーダー

高二D 澁谷 郁音

今回の文化祭で部活・有志展示パートリーダーを務めさせてもらいました。

なぜ実行委員になったかという点、中学3年生の時初めてクラス展示をし、文化祭準備が面白いと感じ高校生になったら文化祭自体を作る側をやってみたいと思ったからです。

展示パートでは、支給品のアンケート、各団体へのオリエンテーションや面談、前日のチェックなどが主な仕事でした。中でも、アンケートで昨年の文化祭を通して不足したものや、必要だったものを把握し、実際にダンボールカッターなどを導入できたことがよかったです。

初めはわからないことが多く企画が進まないこともありましたが、その度に実行委員がお互いに助け合い、最高の文化祭を作ることができました。今回の文化祭を通して長い期間をかけて計画し実現した時の達成感や、多くの仲間と共に作り上げていく面白さを感じました。この10ヶ月は内容の濃いと素晴らしい経験ができました。ありがとうございました。

舞台パートリーダーをやってみて

舞台パートリーダー 高二D 藤田 健成

舞台パートリーダーの藤田健成です。まず初めに舞台パートは他のパートと比べて普段の仕事は少ないです。ですが講堂で文化祭関係の行事がある前の数週間は忙しくなります。今回はそのことについて書きたいと思います。

舞台パートの仕事で一番印象に残っているのは前夜祭です。前夜祭は講堂でやる2回目の仕事でした。今年の前夜祭では多くの団体や有名な最年少ダジャレンジャーなどに出ていただきました。前夜祭前ほどの団体にどこで出てもらい、動画や委員長挨拶をどこに入れるかを考えました。そして、前夜祭のリハーサルでは照明の細かい確認や音響の調整をメインに行いまし

た。前夜祭当日では多少のトラブルが起きてしまいましたが、盛り上がりつつ終わらせることができたので良かったです。僕自身も舞台パートになって舞台のパフォーマンスを上から見るか下から見るかで見方が変わることを感じました。ですが奇術部のマジックは上から見ても仕掛けが全くわかりませんでした。

最後に僕たちのあの勧誘動画のせいだ人がほとんどきてくれなかった中、舞台パートに入ってくれた人、そして舞台でサポートしてくれた実行委員と先生方、委員長、副委員長改めてありがとうございます。

文化祭を振り返って

受付・案内パートリーダー 高二A 山成 俊輔

今回の飛翔祭では非常に貴重な経験をさせてもらった。この文化祭に携われて、とても嬉しく思う。

受付・案内パートでは、来場者の方が迷わないように校内に案内板を設置したり、案内所でパンフレットの配布、投票所で来場者の方の投票を促すことが主な仕事であった。準備の際、案内板を作成することが主な仕事であったが、前回の文化祭実行委員の方が作成したものが残っていたので、それを再編集するだけで済んだので、非常に助かった。特に副パートリーダーは準備の際、実行委員の経験がなかった私をサポートしてくれて、非常に助かった。

当日では、受付・案内パート内に体調不良者が出てしま

い、シフトに穴が空いてしまったが、急遽他のメンバーがシフトに入ってくれて、なんとか対処できた。そのおかげもあって当日は仕事を円滑に行うことができた。

最後に、副パートリーダーやその他の仲間がいなければこの素晴らしい文化祭は成し得なかったと思うている。みなさん本当にありがとうございました。

達成感と感謝

装飾パートリーダー 高二D 江場 光慶

装飾部門では、主にポスターのイラスト制作と校門の装飾に力を入れました。

まず、ポスターのイラスト制作では、このイラストでもいいのかと何度も不安になり、はじめの方はあまり手が付きませんでした。友人たちにアドバイスをもらったおかげで、素晴らしいものが出来上がりました。このイラストは、大階段の装飾、パンフレット、物販の販売品など様々なところで使われ、貴重な体験をさせていただきました。

校門の装飾は、夏休みから長い期間をかけて装飾パート全員で協力して制作しました。今まで新校舎になってから校門の装飾は行われていなかったもので、ど

のように作ればよいのか迷うこともありましたが、装飾パートの皆さんの協力と担当の先生のアドバイスをより予定よりも早く、良いものが出来上がりました。指示を間違えてしまい作業が増えてしまうこともありましたが、最後まで協力して作業した装飾パートの皆さんと担当の先生には、感謝してもしきれないです。ありがとうございました。

ベストを尽くす

情報パートリーダー 高二C 江場 哲平

情報パートリーダーとして活動した江場哲平です。情報パートは、主にコンピュータを使った作業を担当するパートです。動画の撮影や編集、ロゴや物販グッズのデザイン、ウェブサイト・SNSの運営などを行いました。

今年の文化祭の目標の一つに「紙パンフレットの復活」が掲げられており、その制作を任せました。「カラフルでかつこいい」というコンセプトをもとにデザインを行い、過去のパンフレットを参考にしながら、委員会のメンバーや家族・友人など第三者の意見も取り入れて改良を重ねました。

また、前日祭では、私が編集した先生方のリレーダン

ス動画を流しました。とても盛り上がっていたようで嬉しかったです。この動画は、個人的に最も気に入っています。

すべての作業において、妥協せず納得のいくまで時間をかけました。パンフレットは三ヶ月、一本の動画を作るだけでも何十時間とかかっています。どの制作物も自分が出せる最高のクオリティで仕上げるのができたと感じています。とても楽しく、貴重な体験でした。協力してくださった先生、委員会のメンバーと委員長と副委員長の二人に心から感謝しています。

模擬店パートリーダー 高二D 吉田 龍太

皆さんこんにちは、男子部飛翔祭で、模擬店パートのパートリーダーを務めさせて頂きました、高校2年の吉田龍太です。まずは皆さん、文化祭お疲れ様でした！当日の2日間に加えて、夏休み中くらいから前日まで続いた準備、大変だったと思います。なんなら、「夏休み前から少しずつ準備していたぜー！」という団体もあったのではないかと思います。本当にお疲れ様でした。

その一方で、模擬店の準備は、夏休み明けにスタートしていたと思います。と言うと、「じゃあお前は夏休み明けまで何もしとらんかったんか。」という声が聞こえてきそうですが、別にそんな事はありません。模擬店を出してもらう品目の候補を話し合ったりなど、仕事はありました。といっても、保健所的にダメな品目、調理

法がありますので、その点を考慮して決めなければならなかった事で、どうしても似たような品目になってしまったように思います。

そして文化祭当日。2日間ともチケット売り場において、人の流れを予測する事の難しさを感じました。というのも、あまり人が来ないだろうと思われていた時間に人が多く来てしまったり、逆に人が多く来るだろうと思われていた時間にそこまで人が来なかったりなど、予測するのは容易では無い事を実感しました。

最後にはなりましたが、模擬店に関わってくださいました先生方、生徒の皆さんに厚く御礼申し上げますとともに、来年度以降の文化祭の成功を願って、この文の締めとさせていただきます。

仲間 ― 物販パート活動の所感 ―

物販パートリーダー 高二B 久場 貴司

僕は物販に魅力を感じていたので、進んで物販パートリーダーになり、それからとんとん拍子に諸々決まり、全てを順調に回しました…と書けば、格好が良いのですが、現実はその逆煙びやかではないものです。ですが、それでも物販パートでの僕の想いを本稿に綴ったので、良ければご一読ください。

当初は、何をすれば良いのか全く分かりませんでした。やる気は十二分にありましたが、あまり良いリーダーではなかったと自認しています。決める事が山程あり、幾度となく躓きかけましたが、メンバーや他パートの協力＆先生の助言に何度も助けられました。また、僕は仕事を割り振るのが下手で、そのままでは上手くいか

なかったでしょう。しかし、メンバーは自ら仕事を求めました。なので、物販パートは上手く回ったのです。

本稿の冒頭部分を僕は煙びやかと言いました。確かに、一人で全て回していく様は格好が良い。しかし、こんなにも頼れる仲間がいるのに頼らないというのは、些か淋しいものではないでしょうか。頼れる仲間というのは稀有且つ格好の良い存在です。彼らや先生方には本当に感謝をしています。本当に有難う御座いました。

以上です。ご高覧頂き有難う御座いました。

クラス展示

個性豊かなクラスメイト

中二A 早川 健

僕はクラス展示の責任者をやって、素晴らしい展示を作るためにはクラスメイトの協力が必須だということが多分かった。

責任者の仕事のひとつにクラスメイトに制作に関して指示を出す仕事があったが、僕は所属しているブラスバンド部の練習に参加するため、家で整理券を作ったり、当日のシフトを組んだりするくらいのことしかできなかった。

それでも、個性豊かなクラスメイトのおかげで展示が出来上がった。例えば、普段から自分で制作した動画を動画サイトに投稿しているクラスメイトは、その動

画制作のセンスを発揮して列で待っている方に流す動画を作ってくれた。また、普段はおちゃらけキャラのクラスメイトはトロッコを上手に作っていて普段とのギャップが大きくて思わず驚いてしまった。

クラスメイトが丸となって「素晴らしい展示を作る」という目標に向かって、それぞれの個性を生かして制作することができた。その結果、廊下で待っているお客さんが溢れ返るほど、大人気の展示が出来上がった。

僕は今回の制作でそれぞれのクラスメイトの得意なことを再確認し、感動した。

来年度は今回の制作で得たことを生かして新しいクラスメイトとセンスに富んだ展示を作りたい。

初めてのクラス展示

中二B 武井 陽翔

僕は今回初めてクラス展示をやり、自分のには大成功だと思いました。僕のクラスは「ゴーストライド」という、トロッコに乗りながら的を狙うゲームをしました。準備するのに一番まとまった時間だった夏休みは、すこし遊んだもののトロッコが完成したので、良かったと思います。逆にトロッコに力を入れすぎてしまいました。その結果、最後に装飾を慌ててやることになってしまいました。当日には間に合いましたが、もう少し凝った装飾をしたかったと個人的には思いました。なので、来年は計画を立ててやっていきたいです。

僕は今年のクラス展示で中心メンバーとしてやらせてもらいました。当日はなんとかまとまりましたが、準

備期間はロッカールームで遊んでいてあまり作業をしてくれない人がいて、すごくストレスが溜まって、前日の準備中は疲れすぎて寝てしまったこともありました。しかし、やりがいのあるものでした。文化祭が終わると、達成感で満たされました。

今まで中心としてやり、苦労もありながらも最後まで辿り着けてとても良かったと思いました。本当にB組のみんなに感謝しています。来年も中心としてやっていこうかなと思います。本当にありがとうございます。

憧れた文化祭

中二C 恵川 光

僕は今年、クラス展示の責任者を行いました。この数ヶ月間とても忙しくてとても大変でしたが、とても楽しかったです。

僕は去年の飛翔祭で色々なところを見に行つて「こんなことしたいなあ」「あれ楽しかったなあ」など、色々なことを想像していました。そして、中2になってクラスの責任者となりました。初めのころは何をすればいいかを手探りでやっていって全然進めることができなかったです。「先輩方はこんなに大変な準備をしてきたなんて、すごい」と思っていました。

夏休み中は部活動の関係であまり参加できず、クラスメートに任せっきりになってしまったことに、申し

訳なさを感じていました。文化祭ウィークのあたりからみんなで作業することができ、装飾も一気に仕上がりました。「みんなで一致団結するとこんなに良くなるのか」と感動しました。

そして当日、僕はプラスバンド部なのでクラスのこととは他の人に任せていて、時間があるときに仕事をしていました。クラスに戻ってみると、お客さんが外に溢れて行列ができていました。中では盛り上げ隊がたくさんお客さんを楽しませていました。みんなアドリブでいろんなことをやってくれていました。そして、お客さんにも喜んでいただけました。「これが自分たち、お客さん、そして南山男子部にとっての三方良しの関係なのか!」と思いました。

そして、中学装飾部門で3位を取ることができました。その嬉しさは言葉では表せないほどのです。文化祭が終わって、少し寂しい気持ちもありますが、今年の経験を活かして来年も自分たちもお客さんも楽しめるよい展示をつくりたいです。

スピードクラフト

中二D 本江海音・兼田慈英

今回私たちは3台のミニ四駆を走らせ、どのミニ四駆が何番にゴールするかを予想し、順位が当たった数だけコインがもらえるという、スピードクラフトという展示を行いました。

最初に展示を決める際には、クラス全員でどのような展示を行えばよりお客さんに南山の文化祭を楽しんでもらえるかを念頭に置き、白熱した議論をかわしました。その結果、お客さん参加型でありレースの緊迫感を味わえるこの展示が、最もお客さんが楽しめると考えました。

展示を作っていく際には、ミニ四駆が走るコースを自分たちで作るか、市販のものを買うかで意見が分か

れましたが、より創造性のある展示にするためには自分たちで作った方が良いと考えました。

実際に展示を始めるとさまざまな問題が出てきました。今のシステムだと回転率が悪く、お客さんを待たせてしまうだろうことや、予想をする紙が足りなくなるなどです。ですがそのような問題にも、その時々で手が空いていた人やシフトでなくてもクラスの手伝いをしてくれた人たちが解決してくれました。

私たちはこの展示で協力することの大切さと、それによって生まれる大きな力を実感することが出来ました。

みんなで掴んだ装飾賞

中三A 安藤 涼介

僕たちのクラスのテーマは夏祭りになったので、僕は鳥居を作る班を志願した。やるからには、あつと驚くようなすごい鳥居を作ろうと思った。夏休み中は皆部活で多忙にもかかわらず、可能な限り参加してくれた。文化祭準備の初日、その日は生憎皆部活で忙しかったのか二人しか来なかったが、それでもできることをやろうと鳥居の設計図を黒板に書いた。翌日からは継続して四、五人に増え、作業は順調に進んでいった。みんなで段ボールを切り、色を塗り、組み立てまで夏休み中に終わらせることができた。立派な鳥居が建った。あまりの順調さに少し驚いてはいたが、班全員の協力あつてのものだった。

文化祭前日、なかなか思うように進んでいなかった内装班も、脅威の追い込みで完成させた。文化祭当日は予想以上のお客さんが詰めかけ、大忙しとなった。クラスみんなでシフトを分担し、助け合い、とても良い文化祭となった。そして閉会式、僕たちは装飾で銀賞をとることができた。クラスの名前が呼ばれた瞬間、おもしろい叫びたいくらい嬉しかった。まだ高校生の二年間もあるのに、これからも文化祭を楽しみたい。

博打倶楽部を振り返って

中三B 長谷川陽太

ここに2024年度の文化祭の振り返りを記します。

4月から5月のホームルームで文化祭の企画について話し合った際、クラスでは「カジノ」と「クラブ」の2つの案が出ました。クラスではどちらかに絞るのではなく、二つの案を融合しカジノをメインにしつつ、クラブも行うというまさに止揚の企画を考え出すことができました。この柔軟な発想と互いのアイデアを尊重し合った議論は、素晴らしかったです。

夏休みの作業は、思っていた通りには進みませんでした。作業をする日程は決められたものの、作業日に来る人はほんの一部でした。人数が少ないため、思うように計画が進まず、結局動き出したのは文化祭2週間前

からです。もっと早い段階で予定の調整をしていれば、もっと作業を進められたかもしれない、計画性の大切さを感じています。

装飾で特に難航したのは、段ボールの固定方法です。養生テープで雑に貼るだけだとすぐに取れてしまう、何枚も何枚も使わないと固定することができません。

文化祭当日はクラブが一番印象に残りました。来場者や南山生が楽しんでいる様子を見て、自分たちの努力が形になったことを実感できたのは、とてもやりがいがありました。準備は大変でしたが、その分達成感も大きく、今後もこの経験を活かしていきたいと思います。

わくわくVRコースター

中三C 信宗 大輝

文化祭の準備が進む中、特に印象に残った出来事がありました。それは、リハーサルの際に装飾物が全くないことに気づいた瞬間です。展示スペースは何も飾られておらず、まるでそのままの教室のようでした。

リハーサルが始まると、演出に必要な装飾がないことが明らかに、みんなで大慌てしました。文化祭まで残り2週間しかない中で、どうしようかと頭を抱えました。焦りが募る中、仲間たちと話し合い、急いで装飾物を作ることに決めました。

色紙や段ボールを使い、アイデアを出し合いながら手作りの装飾を作る作業は楽しい反面、時間との戦いでもありました。気づいたときには、もう手遅れになる

かもしれないと不安になりましたが、みんなで協力することで、次第に形になっていきました。

さらに、本番の1週間前には、おみこしの持ち手部分の鉄パイプとトロッコがリハーサル中に外れてしまうトラブルも発生しました。このハプニングも焦りを加えましたが、みんなで手分けして修理に取り組み、無事に再接続することができました。

文化祭当日、おみこしを実際に動かす際には、想像以上に大変でした。バランスを保ちながら動かすことは予想以上に難しく、みんなで息を合わせて行動することが求められました。仲間との連携が大切で、少しの動きでバランスを崩してしまうため、緊張感が漂いました。それでも、成功するたびにみんな喜び合うことができ、達成感は格別でした。

準備の過程で経験した困難は、私たちにとって貴重な思い出となりました。あの時の焦りや努力を思い返すと、挑戦することの大切さを実感します。私たちのチームワークがあつてこそ、文化祭を成功に導けたのだと改めて感じています。

文化祭を振り返って

中三D 大内 一 落

僕のクラスでは「ナプリーグ」という企画をやることになって夏休みに準備を始めました。そのときに、トロッコを3台作らなければいけなくて、多くのお金がかかり、内装も大掛かりな作業で、そこにも多くのお金がかかるので予算内で完成させるのがとても難しかったです。夏休みが終わって、時間があるときに作業を続けて、文化祭の1週間前になっても内装でやることが多くてあまりできていなかったもので、文化祭当日までに間に合うのかなと少し不安になりましたが、文化祭前日に何とか間に合って安心しました。文化祭初日は行くことができなかったので二日目だけ行きましたが、二日目だけでも多くの人が来てくれたのでとても

うれしかったです。文化祭の責任者を初めてやったので、最初はこれでいいのかなとかうまくいくのかなとか不安なことがたくさんあったけど、文化祭が無事に終わって、賞も取れて文化祭を成功させることができたととてもうれしかったです。

文化祭を終えて

中三E 稲生翔太・角岡龍ノ助

最初はクラスをまとめることができず、クラス全員が別の方向を向いていました。知識の少ない自分たちが中心メンバーで良いのかと悩みながら時間が過ぎ、企画書の提出期限となっていました。本当にこのままが良いのかとクラスに問い、もう一度考え直しました。そして、企画を変更しました。そこから、徐々にクラスが団結して、勝負の夏休みに突入しました。作業が順調に進んでいると思っていたら、夏休み後半になってもまだ完成していない部分がありました。気が付いたら9月、授業も始まり文化祭まであと14日に。その時、先生が「もう文化祭まで2週間だけど納得ができる形になるのか??文化祭はお客さんに楽しんでもらえる

のも大事だが、自分達が楽しむことも大事だ。」とおっしゃり、全員がやる気に満ち溢れ、クラスが一つになりました。

結果、中学クラス部門で銀賞を受賞することができ、クラスみんなで一緒に喜べたことが一生の思い出になりました。最後に、企画と一緒に作り上げてくれたクラスのみんな、担任の先生、当日来場してくださったお客様、ありがとうございました。

NANZAN OLYMPIC

高一A 小林 瞭太

僕たちは今年の夏、「バリオリンピックを再現しよう!」ということで、教室にバスケットボールのゲームセンター風のゴール、アーチェリー、ストラックアウトを作り、来場者に体験してもらいました。

5月頃からホームルームで何をするか話し合い、A組では水を使った企画も提案されましたが、意見がまとまらず、最終的に多数決で「オリンピック」に決定。4班に分かれて「夏休みに作業しよう!」と盛り上がったものの、実際は買い出しや設計の不備で作業が進まず、みんなも部活や勉強で忙しくてなかなか集まりませんでした。そこで、チームズやLINEで問題を共有して「みんな来て!」と呼びかけたところ、少しずつ協力し

てくれる仲間が増えました。夏休みが終わってからは放課後に教室で作業を進め、文化祭前日も夜8時を過ぎても終わらず、当日の朝6時半から来て内装を固定したのも良い思い出です。アーチェリーは段ボールが貫通するほどの威力にして、段ボールがボロボロになるまで楽しんだのも忘れられません(笑)。

また、4年間クラスリーダーを務めてきましたが、今年が一番角材を使ったと思います。友達と4回も、地下鉄で砂田橋のコーナンに行ったのも良い青春の思い出です。今年は賞こそ取れなかったものの、接客中にお客さんが楽しんでる様子を見て、頑張ってよかったなと思えました。SIAのみんな、ありがとう!

トータルゼータシステムの導入

高一C 古田 智也

今回のS1Cクラス展示の競馬では、南山初（全国初？）のトータルゼータシステムの開発、導入を行いました。システムを導入することによって、今までは固定オッズだったものが、投票数により変動するようになりました。また、馬券は今までは手書きによる発券でしたがレシートで発券できるようになりました。これにより、実際の競馬に近づけることができました。

開発は、AccessとExcelを用いて行いました。馬券を管理するデータベースとそれを操作するフォームをAccessで作成し、それをExcelに連携させ、オッズを計算し表示させました。また、実際の運用面を考えてクラス内でLANを構築し、学校配布PCと中

央サーバーを接続して複数台で発売を行えるようにしました。このようなシステムを導入することによって、ご観覧された皆様にクオリティの高い展示を楽しんでいただけたと思います。

初の試みでしたので、バグがあったりもしましたが無事に展示を開催できて良かったと思っています。最後に、協力してくださったすべての方にこの場を借りて感謝申し上げます。

ありがとうございました。

私がリーダーですか？

高一D 川合虎太郎

私、川合虎太郎はどうやら装飾リーダーだったらしいです。と言うのもこの南窓の原稿執筆の話を受けるまでは自分は装飾リーダーだと分かっていなかったのです。何故かというとは私は一切の装飾の方針決定に関わらなかったからで、文化祭の完成度に大きく関わる夏休み、私は部活に没頭し、三日程しか文化祭準備に参加しませんでした。その後も精力的に参加することはあまりできず。その間にテーマが決まり、装飾の方針が決まっており、気付いたら文化祭一週間前、慌てて装飾の作業をして、そしてあつという間に終了。と言った感じでとてもリーダーと呼べるほどの事をしていなかったと思います。そこでこの南窓のお話をお受けしたの

で、当然私は自分の立場に疑念を抱き友人に問いました、「私は装飾リーダーなのか？全然文化祭準備に行かなかったのに？」すると友人は「でも一番熱心に作業をしていたから、そうだろう」と言ってくれました。正直にうれしかったです。確かに私は作業時間などではリーダーではありませんでした、しかし友人がそうやって言ってくれるぐらいの作業をできたのなら少しはリーダーらしいことができたのかなと思うことができました。ここまで読んでいただきありがとうございます。以上装飾リーダー、川合虎太郎でした。

文化祭準備の作業を 効率化させるために

高一E 江本 翔

僕は文化祭準備期間を有意義にするため、クラス全体に作業をするように呼びかけた。すると、クラスのほとんどが作業をしに来た日が訪れ、僕は作業が進むと思っていた。しかし、その状況は裏目に出た。なぜなら多くの人は、何を作ればいいか、何をどんな色で塗ればいいか分からず、作業が止まってしまったり、来てもすることがないからとゲームをする人もおり、それに乗ってしまう人もいたからである。

どうしたら良いかと考えたとき、ある教師が話していたことを思い出した。「チームは必ず2・6・2の割合で分かれる。自分から動ける人が2割、足を引っ張るの

も2割、どちらでもないのが6割だ。大切なことは自分から動ける人が、6割の中間の人をどれだけチームのプラスにするかだ。」だから僕は、自分から動ける人を一点に固めるのではなく、バラバラに配置し、6割の人に指示するよう勧めた。するとわずか3日程で教室は展示物で溢れるようになった。その結果S1Eは見事優勝を取ることができた。この文化祭を通して僕が言えることは、作業をより効率化するためには、自分から率先して動ける人が、他人に指示をして役割を与えることが重要であるということだ。

最高の文化祭

高二A 白石京太郎

今年の飛翔祭でS2Aは回転シーソー「君と僕の逃飛行」を作成した。始業式の日、担任が早速声を掛ける。「文化祭準備をいまから始めよう。」全員度肝を抜かれた。こんなに早くから活動するなんて、と思った人も多かった。また、体育祭に賭けた方がいいのではという意見も飛び出していた。そうこうしているうちに5月になり、企画内容と役割分担が整い準備が始まった。しかし全くノウハウがないため何をすればいいか分からない。そのためYouTubeでひたすら動画をみてオリジナルの物を作ることにした。クラス一のお陰で設計図が完成し、材料の調達が始まった。ホームセンターで購入した。手に入らないものは近所のガソリンスタンドな

どに行き、譲り受けた。製作に入り、シーソーの部分までは上手くいくものの土台の回す部分が上手くいかない。しかし、早くから活動をしていた僕たちの結束力は素晴らしい、みなで意見を出し合い解決した。装飾も素晴らしいものができた。これも2回の決起集会で結束力を高めていたおかげだ。結果は2位。しかしやりきったことに悔いは残らない。間違いなく記憶に残る最高の文化祭となった。みんなありがとう!!

文化祭を振り返って

高二B 加藤 日向

高2B組では、一学期に、ホームルームで文化祭でやるテーマをお化け迷路に決定した。その後夏休みになり、本来はこの期間に展示の制作を進めるのが望ましかったであろうが、高2ということ、部活であったり勉強であったりと皆いそがしくて、なかなか作業に人が集まらず、また、テーマが迷路ということで教室に迷路を作るのだが、まだ授業が残っており教室に迷路を設置することが出来なかったもので、できる作業というのが設計図の作成にとどまった。夏休みが終わり、二学期が始まって教室に迷路を設置するというメイン作業は授業で教室を使うため、文化祭直前になるまで行うことが出来なかったが、自分たちでできることを

考えて、装飾などを一生懸命つくっていった。そして文化祭一週間前になり作業がものすごい勢いで進み、正直それまでは他のクラスに引けを取っていると思っていた展示の完成度が、堂々とできるまでの物に仕上がったので、かなりほっとした。そして文化祭当日、たくさんの人々が来場して長蛇の列もできたので、最後の文化祭として最高のものとなってよかった。

飛翔祭

高二C 本多 直幸

今回我がクラスは飛翔祭において「NANDIANA JONES」を製作した。

一学期上旬、文化祭についてクラスで議論した際、クラス全体の意見は模擬店と展示の双方を行うことであるとまとめた。

模擬店は「たません」、展示は「ジェットコースター」を制作する事となった。

ジェットコースターを制作するといっても、ジェットコースターのコンセプト即ち装飾をどうするかという議論となった時に、とあるアトラクションを参考にした。そのアトラクションからこの「NANDIANA JONES」という名前となった。一学期半ばのことであった。

我がクラスは理系の物理選択であった。少数精鋭のメンバーで設計を行った。授業で学んだ物理学の知識を応用し、搭乗者の安全を最優先として設計を行った。

ジェットコースターとその名の通り大作を作る事となった。当初、予算内に収めようとしたもののジェットコースターの規模が大きく、結果一人当たり1500円を徴収して製作することとなった。

夏休みに入り買い出し、製作を行い徐々に制作していった。クラスの生徒は各々夏休みの合間を縫って可能な限り参加し製作した。

文化祭前日のことである。作業は大詰めとなった。教室を目一杯使っていざ設営してみるとここで問題発覚。修正に大幅な時間を要し装飾が間に合うかという瀬戸際となったのである。クラスで、協力して下校時刻ギリギリまで作業を継続し、翌朝もギリギリまで作業を行いなんとか間に合わせる事ができた。

私は初日しか知らないが、ご来場者の皆さんは怪我もなく楽しんでいたの何よりである。

やってよかったなと安堵感に包まれたのであった。

文化祭

高二E 安岡 大賢

S2Eではクラス企画としてカジノを実施しました。僕自身、昨年もクラス企画でカジノを実施したのですが、色々改善すべき点があったので今年はそれを踏まえて、よりよいものを作ろうと様々な工夫をしました。まず、昨年は一つのゲームにつき4人しか座ることができず、回転率が悪くなってしまったので、今年は2倍の8人に増やし回転率を良くすることでより多くのお客さんに楽しんでいただくことができました。また、昨年の講評でよい評価をいただいた手作りのルーレットについてもポケットの数を24個から36個に増やすことで、より本物のルーレットに近づけました。さらに、得点カードを自作し黒板にランキングを作成したり、机に

フェルトを敷いて本物のカジノに近づけたりするといった努力をしました。残念ながら賞を獲得することはできませんでしたが、南山生活最後にして最高の文化祭になったと思います。最後に、当日まで一緒に頑張ってくれたクラスメイトのみんな、ありがとう！

部展示

今回の文化祭を終えて

アマチュア無線同好会 高二D 大西 幸太朗

今年、我が同好会が行った出し物は例年行ってきたアマチュア無線関連の展示に加え、新たにドローン操縦体験というものを実施しました。ドローンは無線で飛ばすので多少この部活とも関係があります。ちなみに、ドローンは補助金で購入しました。

詳しい展示内容についてはアマチュア無線関連の展示をするだけでなく、お客さんに適宜アマチュア無線の説明をするというものです。そして、ドローン飛行は園芸用の網で製作した蚊帳のようなものの中にドローンを置き、お客さんにドローンを操縦させました。操作説明は中1の生徒が頑張ってくれました。

前夜祭の1日前から出し物の準備を行いました。部員が少ないので準備に時間がかってしまうのはいかと不安でしたが、忙しい中駆けつけてくれた10数名の同級生たちの協力のおかげでドローン操縦用の蚊帳が完成しました。これを受け僕は上手くいけると思っていました。前夜祭にドローンが壊れてしまうというハプニングが起きました。全てが無駄になってしまうという焦りの中、数名の部員が似たようなドローンを持っていたのでなんとか文化祭を無事に終えることができました。

残念ながら入賞はできませんでしたが、個人的にはお客さんもいつもより来客されたのでよくできたかなと思っています。最後に、協力してくれたo.bの方々、接客を頑張った部員、そして忙しい中駆けつけてくれた同級生に感謝です。ありがとうございました。

楽しい英語学習とは

英語部 高二A 大竹 永遠

私達英語部は普段の活動時から意識している「英語に触れる機会を増やし楽しむ」というモットーをもとに今回の文化祭展示を作りました。具体的にはダーツ・ボーリング・ボール転がしゲームという誰もが楽しめるゲームに英語のクイズの要素を付け加え、クイズに答えて得られるポイントをランキング形式で競うという展示をしました。老若男女問わず幅広い年代の皆さんが見に来てくださり、又「英語を楽しく学べてよかった」や「英語についてもっと知りたい」などの数多くのポジティブで英語にふれあうことに前向きなコメントを頂きとても嬉しかったです。それらのコメントや今回の展示を通して私達部員も英語に楽しく触れ合うこ

との大切さを再確認できました。惜しくも賞を受賞することはできませんでしたが、来場して下さった皆さんに展示を楽しんでいただき、私達部員も英語に触れ合うことに対するモチベーションが上がる、とても良い展示になったと強く感じました。

Our Journey Through The Cultural Festival

Hi, I am Lui. Today, I would like to share what we did at the cultural festival. We organized three games: the bowling game, the darts game, and the ball-rolling game.

For the darts game, I felt that simply throwing a ball at a target wouldn't provide many chances to use English, so we introduced the 'World Darts Game.' Players threw balls at the world map and named the countries they hit—in English, of course! In this way, we encouraged everyone to use English while having fun

The feedback we received was fantastic! People said things like, "It's amazing that all the instructions were in English!" and "The games were fun for all ages, from kids to adults!" Thanks so much for the feedback!

英語部
高一D
中村
琉生

文化祭での学び

奇術部部長 高二D 山田 亮

奇術部の文化祭への活動を通じて得た学びは、多くの面で成長の糧となりました。まず、チームワークの大切さです。マジックは一人で披露するものが多いですが、準備や演出には部員全員が協力する必要があります。役割分担や意見交換を通じて、互いに信頼し合いながら一つの目標に向かう喜びを感じました。

次に、観客の視点に立つ重要性です。演技がスムーズに見えるよう練習を重ねましたが、観客の反応を意識することで改良点が見つかり、臨機応変に対応する力が身につきました。特に、失敗しても笑顔で続けることや、視線を引き付ける工夫など、観客に満足してもらうための努力が必要だと思いました。

最後に、努力の成果を信じる心の強さです。文化祭では緊張もありましたが、練習の積み重ねが自信につながり、演技を成功させることができました。こうして、奇術部の文化祭を通じて得た経験は、今後の活動や人間関係、社会に出た後においても生かしていける貴重な学びとなったと思います。

部長欠席の文化祭

写真部 中二D 秋山 然

写真部では「私の小さな写真の旅」というテーマで部員一人ずつテーマを決め、同じジャンルの写真や、同じ地域の写真を計80枚程展示しました。展示した写真の中には、車や鉄道、長野の写真といった様々なテーマの写真がありました。写真の下にはタイトルや撮影場所、カメラの設定、写真を撮った本人のコメントを掲示しました。また、三脚につけられたカメラのレンズ部分が開いている、顔はめパネルを設置し、写真部の部員が撮影するという取り組みをし、多くの方楽しんでいただきました。入口にはコメント用ノートを置き、自由にコメントをしてもらうことで次の文化祭で改善すべきことを見つけることができました。さらに、部員がレン

ズの部分を開けた段ボールカメラを持って宣伝し、「面白そうだ」というイメージをお客様に与えることができました。

最後に、今回アカデミック賞銅賞を受賞することができ、大変うれしく思います。

将棋の楽しさを伝えよう

将棋部 中三D 高田 純兵

将棋部では、「将棋's World」といったタイトルで、展示を開きました。僕たちは、将棋の素晴らしさを少しでも広げるために、「将棋の楽しさを伝えよう」といったテーマを決めて、主に二つのコーナーを設置しました。一つ目は、将棋が分からない人のために「初心者体験コーナー」を設置しました。部員たちが、将棋のルールや駒の動かし方を丁寧に説明し、実際に簡単な対局も体験してもらいました。たくさんの方々から、「面白い」という感想をいただきました。二つ目は、上級者の方々のために、「指導対局」を設置しました。将棋部の顧問や部員たちと来場者の方々が、一対一で対局をしました。私たち将棋部員も新たな学びを得られました。

た。自分のレベルに合わせたアドバイスを受けられることが好評でした。今年の文化祭を通して、部員たちは「将棋の楽しさを伝える」という大きなやりがいを感じました。来場者の方々からは、「将棋を始めてみようと思う」などと、いった前向きな感想をたくさんいただきました。将棋に興味を持つきっかけになれたことを嬉しく思います。

南山RPG作成

パソコン同好会 高二D 中島 蓮生

昨年は「南山マイクラ」を使用したVRや体験プレイを行いました。今年は南山をモチーフにしたRPGの作成に挑戦しました。ストーリー台本、デザイン、BGM、プログラムを部員で作成し、その後、マップ制作(約90個)、ゲームバランス調整、ストーリーの添削、イベント作成、初心者救済のシステムの作成を行いました。部員みんなの協力によって、プログラムや台本は大変よいものになっており、マップやデザインも細かいところまで再現がされています。また、ホームページも作成し、文化祭で使ったRPGの本編のデータ(Windowsのみ対応)を公開しています。バグ修正なども含めたアップデートもしていますので、安心し

て遊ぶことが可能です。昨年度の文化祭で使った南山再現マイクラフト(Java版)も近日中に公開予定です。ぜひ遊んでみてください。

パソコン同好会のホームページはこちら:

<https://sites.google.com/view/nbpclub>

同好会の挑戦

美術同好会 高一E 須藤 晃成

美術同好会では各自、部員等が製作した作品を展示しました。作品は一貫性がある訳ではないですが、部員等が伸び伸びと好きなものを描いており、結果的にそれが味となって良かったと思います。かといって一貫した共通のテーマがあった方がお客さん視点から見ても流れが掴みやすく分かりやすかった気がします。今回はこの反省を生かし、より良いものに使いたいです。

さて、美術同好会は今回、装飾の金賞を獲得することができました。部員が8人と少ない美術同好会にとって賞を取れたことに部員一同嬉しく思っております。装飾のテーマは、部員等と相談しながら、部員の「お洒落なカフェを作りたい」という要望で、去年部活で製作

したエプロンのロゴが某有名カフェだったということもあり、決めることができました。エプロンのロゴは高三の先輩方が考案したもので、今回の文化祭で生かして良かったです。外装も某有名カフェの外装を忠実に再現しました。今回の文化祭でお子さん連れの方からの反響がよく、うれしいお言葉や要望をたくさん頂きました。

最後に、私は高一と未熟ですが部長という責任のある役を務めました。そして今回の文化祭を通して部長の大変さをより一層感じました。

文化祭を終えて

理科部生物班 高一D 高橋 孝太

まず初めに、今回の飛翔祭において部活動部門で銅賞をいただけたことについて、一緒に展示を作り上げてきた部員、そして顧問の宮下先生、勝山先生に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

生物班では「専門的に見ごたえのある展示」と「多くの方が楽しめる展示」の両立をテーマに、展示内容を工夫しました。

イワナやタガメをはじめとした、30種以上の珍しい生体や、制作してきた昆虫標本の展示、さらにメダカの掛け合わせの研究や生物多様性の解説などを通じて、専門的で充実した展示を実現しました。

また、多くの方が楽しめる展示を目指し、カメの餌や

り体験やドクターフィッシュとのふれあい、標本作り体験、さらには中学1年生で習う「少年の日の思い出」に登場するクジャクヤママユの展示などを行いました。

その結果、生物に興味のある方も、そうでない方も楽しめる展示ができたと思います。

最後に、展示に足を運んでくださった皆さま、忙しい中応援に駆けつけてくださったOBの先輩方、そして私たちの展示を評価してくださった先生方、本当にありがとうございました。

文化祭を終えて

理科部地質班 高二D 藤田 健成

地質班部長の藤田健成です。僕は地質班の部長を2年間務めさせていただきました。今回は2年間の活動を報告させていただきます。

僕はまず1年目に恐竜の模型を作りました。僕が地質班に入った理由は恐竜の模型を作ってみたかったからです。地質班では僕が入学した時から作れていませんでした。理由はわかりません。ですが、せっかく部長になったなら自分がやりたかったことをやろうと思い、また、先輩から伝わる技術を失ってはいけないと思っていたので完成した時の達成感は半端なかつたです。

2年目は1年目の時に好評だった体験型の展示を増やそうと思いました。特に一番地質班らしい化石のク

リーニング体験が一番好評だったのはうれしかったです。また、人工ルビーの生成が1年目の時はうまく行く時と出来ない時がありましたが、2年目に方法を1つ変えたら毎回成功するようになり、いろんなことを学べた気がします。

最後に2年間部長として貴重な経験ができたと思います。そして、2年間支えてくれた部員、顧問の谷口先生、奥岡先生ありがとうございました。

星に願いを

理科部天文班 高二A 山成 俊輔

今回の文化祭で理科部天文班では、昨年に引き続き手作りプラネタリウムドームを用いた天文解説と模型製作に加え、紙コップを用いたミニプラネタリウム製作体験、部員による部活の活動発表を行った。手作りプラネタリウムを作成する際、高3の先輩に設計図の作成、作る際の注意点など多大なサポートをしていた。いた。

製作は夏休みが始まってすぐに開始した。設計図を作成する際、配布された段ボールを最大限に利用できるようにするのに苦労した。実際に段ボールに図面を落とし込み、切り取る際にも、個々のパーツにバラつかないように注意した。プラネタリウムは文化祭の1週

間前くらいに完成し、夏休みから続けてきた努力が実り、幸甚の至りであった。模型は今回、「ISSのきぼう」を作成したが、その作成を開始した時期は文化祭の5日前ほどであった。しかし、高1の後輩の献身もあって無事、模型を完成することができた。

文化祭当日には多くの来場者の方に来ていただいた。ミニプラネタリウム製作では、部員が来場者に教えながら製作するものだったがとても好評であった。この文化祭に関わったすべての部員、諸先輩方に格別の感謝を申し上げる。

コロナ禍を乗り越えて

歴史研究同好会 高二E 鈴木 朝陽

南山がコロナ禍を乗り越え、早3度目となる通常開催での飛翔祭を迎えた。今年の飛翔祭で歴史研究同好会では「レオパルド2」の模型とレポート集を制作し展示した。

飛翔祭を振り返り思うことは、コロナ禍以前の雰囲気にならず近づいたことであろう。コロナ禍を経て歴研のメイン展示である模型は小さいものとなっていたが、今年は以前のような大きな模型の展示ができたことは進歩であるといえる。実際、展示を見に来たお客さんも満足していただいた。しかし、大きな展示がつかれたとはいえ、時間配分などがうまくいかず、直前に慌ただしくなり、ディテールや外装などまで手が回

らなくなってしまった。これによって、展示のクオリティが下がってしまった。さらに模型を1つ置くだけでなく、小さな模型も展示して戦車の変遷などが伝わるようにしたり、クイズや体験などでお客さんも楽しめるようにしたりすると、よりよい展示になるかもしれない。

これらのことを反省点として受け止め、後輩たちにはこれを改善するよう期待したい。

模型製作はとても大変であるため、完成した時の達成感は大かった。この経験は僕自身にとっても、さまざまな手伝ってくれた後輩たちにとってもかけがえのないものになるだろう。

有志展示

The G

緑島 中二B 浦田 征治

今回の映画制作はとても実りのあるものでした。反省すべき点が3つありました。

1つ目は、映像を撮った時に音声が入っていないなかった事です。編集する時に、声が聞こえていない時があり、字幕をつけました。これは観ている人には、少し気になるところです。次回からはマイクなどを使い、音声をしっかり入れることを意識して作りたいです。

2つ目は撮影を急いで撮ったことです。役者との連絡の取り合いがうまく行っておらず、撮影する日が十分に取れませんでした。これからは撮影日をちゃんと決めて取りたいと思います。3つ目はカメラアングルで

す。カットをせずに撮ったところがあり、手ぶれが目立ちました。これらのことから反省点が沢山ありました。しかし、いい事もありました。映像を撮っていくうちにコツがわかってきて楽しくなっていました。そして撮影が終わった後の達成感は一生涯忘れられないものとなりました。そしてこれからはCGのレベルを上げ、Gの逆襲ではより世界観をより壮大にし、映画の質を向上させていこうと思います。

文化祭を通して感じたこと

GLACIES 高一C 高谷 智宏

昨年に引き続き、今年も有志として音楽ゲームを出展しました。私はゲーム制作を趣味にしていますが、他の方に遊んでもらう機会はそうありません。昨年初めて出展し、来場してくださった皆さんが驚きながらも楽しそうにプレイする様子を間近で見られたことに感激して、昨年の文化祭が終わった時から今年も出展すると決めていました。

南山の文化祭では有志の出展にも補助金が支給されるほか、担当顧問の先生や実行委員の方々が手厚くサポートしてくれるので活動しやすい環境が整っています。

しかし昨年同様、スケジュール管理の罫に嵌り（要は怠っていただけなのですが）、本番直前の当日朝まで作

業に追われていました。今後はこのような事態にならないように計画的に準備することを胸に刻みました。

また、南山の文化祭で大きく得たものももう一つあります。私のゲーム制作を応援してくれる多くの友人たちです。準備から運営、撤収まで、彼らの協力のおかげで今年も手応えのある展示を成功させることができました。

最後になりましたが、文化祭で自分の作品を皆さんに楽しんでいただく機会を与えてくださったこと、そして、私の活動を支えてくださった多くの方に感謝いたします。ありがとうございました。

ひだかの馬たちと自然

サンダバ 高一C 古田 智也

今回、有志展示サンダバでは、日高地方の馬の写真と自然風景の写真を展示しました。日高地方は日本の代表的な馬産地であり、大変自然豊かな場所でもあります。とても美しい北海道ひだかの日常風景と夏の緑豊かな自然を写真に収めたいと思い、私は8月に新ひだか町へ向かいました。牧場に伺い、放牧地内で特別に馬の写真を撮影させていただきました。ここでは、馬たちが草原の中で牧草を食べたり、奥の方では2頭で走ったりする、名古屋では到底見られないような自然の風景が広がっていました。私は何度もひだかに行っていますが、いつ行っても心が癒やされます。日高山脈から流れる静内川も大変すばらしい感動を与えてくれました。

た。下流では静内の街を流れ、上流へ進むと山の中にとんどん入っていきます。人の姿が全く見えないところまで来ると、水は澄み、魚が泳いでいるのが見えしました。この風景をファインダー越しに収め、展示させていただきました。今回の展示を通じて、ひだかの馬と自然の魅力を少しでも多くの方々に感じていただけたら幸いです。

謎解き脱出ゲーム ―閉ざされた教室―

脱出ゲーム 高一A 冬木 正陽

僕達は、9人で謎解きゲームを作りました。謎をつくる際、ゲームの進行上都合のいい答えを選んでいくことや、それらを適切に配置することに苦労しました。しかし、それをフィードバックする事で、ゴールから逆算し、物事を作り上げていく思考法が学べたと思います。

また、集団で作業をする上で大切な事(制作過程の透明化や説明、情報共有など)や、お客さんに、与えられた時間内に良い体験を提供すること(優先順位を決め伝えるポイントを絞る事など)の難しさを実感することができました。改善できた点としては、試遊を早期に行うことや、解きやすい難易度にする事などでした。た

だ、そんな中でも、制作過程で、それぞれのメンバーの得意な事(イラストレート、スライド作成、装飾など)を出し合い企画を完成できたことや、家族連れを中心に多くのお客さんに楽しんでもらえたこと(全ての整理券がソールドアウト)は十分な成功だと思います。今回の制作で学んだことを、来年の活動、引いては今後の人生に活かしていけたらと思います。

舞台

支えあつての部活動

ブラスバンド部 高二D 山澄 竜成

先月行われた飛翔祭ステージは、盛況のうちに終えることができました。ご来場いただいた方々に感謝申し上げます。

中学生の頃は裏方の段取りなど知らず、演奏だけに集中することが当たり前だと思っていました。演奏に集中できていたということが先輩方の並々ならぬ努力と運営力があつたからこそのものだつたと自分が幹部の仕事に携わるようになって気づきました。

演奏会やイベントの開催までには様々なプロセスがあり、何度も打ち合わせを重ねみんなの意見をすり合わせていきます。例えば、開催会場を決めるところから

始まり、予約の手配や会場スタッフとの照明、音響の打ち合わせ、舞台上の部員のフォーメーションなど多岐にわたります。

部長になり部活運営をしていく中で主軸としていることは、部員が方向性を同じにして段取りよく活動できるよう、縁の下の力持ち的な支えになることです。チームをまとめることは、時には苦慮することもあります。社会に出た際に必要なこととして今経験できていることは自分の財産になると信じています。

当たり前に感じている事には必ず誰かの支えがある。5年間の部活動を通して学びました。

白波五人男より 稲瀬川勢揃いを演じて

演劇同好会 中二E 坂本 孝祐

この劇を演じての感想を一言で表すと「達成感と感謝」です。まず、部員全員が一致団結して一つの劇を作り上げたこと、演劇同好会初の総合順位銅賞を獲得できたこと、さらに当日大きな失敗もなく、去年と比べて格段に演技の腕が上がり、とても充実した時間を過ごせたことで大きな達成感を得ました。そして、この劇の完成のため最大限尽力して下さった顧問の中谷先生及び演劇指導だけでなく、衣装や小道具まで用意して、この劇の成功のために一から支え、導いていただいた劇団「御陵一座」の先生方に、心から感謝したいと思います。もし、御陵先生方のご指導がなければ、この劇の

完成も成功もなかったと思います。この演劇同好会は一度は廃部寸前まで追い込まれましたが、現在は中学生九人で活動しています。五人男、役人、裏方も含め、誰か一人でも欠けていたら、この劇がこんなに素晴らしきものにならなかったと思います。

この劇に参加でき、非常に光栄でした。仲間と共に一つの劇の完成のために努力できたことは大きな財産となりました。これからは部に昇格できるよう部員数を増やし、より技術を向上させ、皆でステップアップしていきたいです。

不退転の決意で挑んだ舞台

ダジャレンジャー 高二D 桑田 大輝

私は最年少ダジャレンジャーとして、飛翔祭の有志舞台、前日祭に出させていただきました。前日祭ではだじゃれを入れた話をしました、はなから鼻で笑われる覚悟でのぞみましたが、スポットライトのひかりを浴びて実際に披露するとヒーローでも来たかのごとく、歓声がこだまするくらい盛り上がってくれて嬉しかった事を今でも覚えています。

次に飛翔祭当日の有志舞台『簡単だじゃレクチャー』についてです。これは前日祭とは違い盛り上がりませんでした、思い当たる原因を書きますので、これから有志舞台をやる人は参考にしてください。それは盛り上がる場面を作らなかったという事です。講義のような

舞台だと舞台にいる人からお客さんへ、一方通行になつてしまいがちなのでお客さんを巻き込んだアクションがあつても良かったかなと思います。

最後に、だじゃれという内容があつて無いような舞台発表を承認してくださった先生方、前日祭、当日のスポットライトなどしてくれた文化祭実行委員のみなさんありがとうございました。

南山ヲタ芸 The Final

南山ヲタ芸 高三D 河井 順

こんにちは、南山ヲタ芸リーダーの河井順です。ヲタ芸、観てくださったでしょうか？進行役の声がありえないくらい聞きづらかったですね。恥ずかしさを勢いと声量で隠そうとする感じがしましたよね。あれ僕です。

今年の南山ヲタ芸の舞台は、去年一昨年よりも動きが揃っていて、綺麗だったし、最後の十人でのヲタ芸は圧巻だったのではないかと思います。高三生でほぼ全員暇ではないのに、あそこまでの舞台の完成度にくれたメンバーや、観に来てくださった方々には感謝しかないです。

ちなみに、南山ヲタ芸は動画展示していました。編

集も半年以上かけていたので、いい出来だったと思います。まあ文化祭当日は、舞台の練習で忙しすぎて宣伝をほぼしていなかったから、ヲタ芸目当てで来る人は全然いなかったんですけどね。

ヲタ芸には練習も沢山いるし、全体の動きを合わせるのも大変だし、お金もかかります。ですが僕は、南山ヲタ芸の意思を継いで、僕たちが卒業した来年も飛翔祭でヲタ芸を打っていく者が出てくると信じています！

では、またステージの上で会う時までー

オールージュ 高二C 坂井 映亮

2023年、2024年文化祭にて有応舞台に出演しました『オールージュ』です。僕たちは2023年に結成した4人組バンドであり、機能的な演奏ではなく、学生として皆で共に演奏することの素晴らしさを知り、来てくださった方々に、1人でも多く、その音楽の素晴らしさをお届けしたいという願いのもと、活動させていただきました。

今年の文化祭では、弦楽四重奏で『ミッシェンインボッシブル』と『民衆の歌』、ピアノソロで『愛の夢』、チェロソロで『ブルー』、ピアノトリオ+クラシックギターの四重奏で『ジュラシックパーク』、最後にピアノトリオで『カンタータ』を演奏しました。

僕たちは、もちろんたくさん練習をしてきました。始

めの方は2ヶ月に一回としまして9月に入ってから毎朝学校で集まり練習をし昼放課にも練習をしました。このように万難を排して取り組み最終的には様々な方の協力によって文化祭ステージにて成功を収めることができました。来年私たちは高校三年生になるため活動の詳細は未定となっておりますがこれからも楽器や音楽の素晴らしさを伝えられたいなと思っております。短い期間でしたが本当にありがとうございました。

有志演奏

無条件に突き進め

Unconditional 高一C 古田 智也

Unconditionalでキーボードを担当しております古田です。今回は、私たちのバンド「Unconditional」の活動とその裏側についてご紹介いたします。

ボーカルの小林君がUnconditionalに加入したのは4月のことでした。当初は大きな声を出すことが困難な状態でしたが、9月の文化祭本番に向け、既存メンバー全員でボイトレのサポートを行いました。振り返ってみると、メンバーの中で最も努力を重ねていたのは小林君だったと感じています。6月ごろには徐々に声が出るようになり、確実に上達の兆しを見せていました。

9月の本番が近づくにつれ、バンド全体での合わせ練習が始まり、その中でいくつかの課題が見つかりましたが、小林君はそのすべてを克服し、見事に仕上げてくれました。文化祭本番当日は、多少のミスはあったものの、順調に進行し、最終的には熱狂的な歓声の中で成功を収めることができました。他のメンバーもそれぞれに努力を重ね、素晴らしい演奏を披露してくれました。

最後になりましたが、有志演奏にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

後期生徒自治会活動報告

The Challenging Seitokai

生徒自治会会長 高一D 中村 琉生

こんにちは、二〇二四年度後期生徒会長を務めさせていただきました、中村琉生です。後期生徒会で開催した企画についてお話しします。僕は中学生の頃から生徒会に携わってきました。南山は他校に比べて校則の自由度が高いことから、生徒主体の企画を開催することこそ生徒会の役目ではないかと思っていました。しかし、中学時代には他校との交流の案が出て、大きな壁があり実現には至りませんでした。そのような中、高校一年の六月、南山大学のオープンキャンパスで教授

と雑談する中で交流会のアイデアが浮かび、「機会があればよろしくお願いします」と伝えました。十月、ついに生徒会長となり、公約に掲げた「南山大学生との交流会」「本の寄贈の実現」に向けて活動を開始しました。議会では各議員や委員長が集まり、活発な意見交換が行われました。

一 交流会

十一月、南山大との交流会実地に向けて、大学の教授と連絡を重ね、翌月、交流会を開催することができました。大学生による大学生活のプレゼンテーションの後、お菓子を食べながら座談会を実施しました。大学生活や将来について貴重な話を聞くことができ、参加者にとって学びの多い時間となりました。教授や参加者からも好評をいただきました。二〇二五年二月には、「授業改革フェス」で生徒会活動としてこの交流会をプレゼンする機会をいただきました。複数校の生徒会長から「刺激を受けた」との声をいただき、さらにその中の一人から「もっと話したい」と声をかけられたことか

ら、生徒会同士の交流会を開くことにもなりました。偶然から始まった南山大学との交流は、他校との壁を壊し、新たなつながりを生み出しました。このような交流の輪の広がりが続くことを願いながら、今後とも関わっていただけたらと思います。また、南山大学との交流会をまとめた通信「Seitokai News Flash」も作成しましたので、ぜひご覧ください。

二本の寄贈

本の寄贈とは、SDGsの観点から不要になった参考書やおすすめの本を寄贈し、必要な生徒が無料で受け取れる仕組みです。議会で賛成を得て要望書を作成しましたが、考慮すべき点が多く手こずりました。しかし、執行部の協力もあり、任期終了間際に要望書を提出し、無事に先生方から承認を得ることができました。「これから本の寄贈を開始できる！」と思った矢先、任期が終わってしまいました。次期生徒会がこの制度を引き継ぎ、実現してくれることを願っています。

その他、一月には受験生への応援動画を作成し、三月

には地域貢献として生徒会主催の「スプリングカーニバル」の司会を担当し、生徒会からの出し物としてじゃんけん大会を催しました。来てくれた子どもたちの笑顔はとても心温まるものでした。

限られた任期の中で、長年の公約だった他校との交流を実現し、新たな本の寄贈制度の許可も得ることができ、歴代の生徒会の先輩方のように、南山に新たな風を吹かせることができたのではないかと思います。

最後に、生徒会の活動は忙しいものですが、充実して楽しい時間でした。大学生を紹介してくださった教授、後期生徒会活動に携わった先生方、生徒会メンバーの皆さん、半年間ありがとうございました。

座談会

座談会では皆で輪になって、各々大学生活について聞いたり、それぞれの海外経験の話をしたり、お悩み相談をしたりと、とても深い話ことができました。

大学生と南山生の交流だけでなく、先輩-後輩間の交流も促進できたことが成功したといえる点です。用意したドリンクとスナックがあったという間に無くなったため驚きました。



参加者の感想、学び

色々な意味で見聞が広がった。世界の広さを感じ、自分も他のアジア圏以外にも行ってみたいと思った。

(中三)

領事館の仕事の話はすごく興味深かった。お菓子を食べながら話をする時間もあり、雰囲気よかった。

(高一)

良い企画だった。自分の知らない文化圏を身近に感じることができたし、文系学部についての話を聞くことができて参考になった。(高一)

先輩方のプレゼン力は素晴らしく、感銘を受けた。特に、質問を効果的に使い聴衆を巻き込むなどのことを自然とされていたことに驚いた。このプレゼン力は海外生活だけでなく、どこでも使えるスキルだろう。

(高一)

スペイン語圏の国々のイメージが湧きにくかったのですが、それが知れてよかった。また、交流会のおかげで質問し易く、留学に関する情報を沢山知ることが出来た。他の国の会もあるなら参加したい。(高二)

ただ留学のお話を聞いて質問するだけではなかなか恥ずかしく質問できないが、お菓子を食べながら大学生の方とお話できたため、たくさん色々なことを聞けて良かったです。

(高二)

最後に...

どんな時も出会いを大切にすることの重要性を改めて実感しています。

牛田教授、當銘さん、村松さん、この企画をサポートして下さった方々、本当にありがとうございました。そして、参加して戴いた皆さんお集まりいただき感謝いたします。



NANZAN SENIOR HIGH SCHOOL BOY'S DIVISION SEITOKAI NEWS-FLASH

高校生徒会企画 南山大学との交流会



ご挨拶

こんにちは。生徒会会長の中村琉生です。後期生徒会活動として、活動報告をいたします。昨年 12 月 13 日(金)に南山大学と南山男子部で交流会を開催しました。スペインラテンアメリカ学科の先輩お二人をお招きしました。

I 當銘盛汰さん(趣味：ランニング、よこさい、スペイン史)

當銘さんはスペインのバルセロナで留学をされました。留学先での経験、そこでの出会いは今でも繋がるかけがえのないものとなっているとおっしゃっていました。留学先では、翻訳学校に通いながらボランティア活動や日本文化を紹介する企画をされました。異文化交流を通じて、自国の文化を新たな視点で再認識されたそうです。



II 村松莉緒さん(趣味：海外旅行、舞台観劇、読書)

村松さんは、中米のコスタリカの日本大使館にて勤務されました。留学との大きな違いは実際に語学力を生かして仕事をすること。具体的な業務内容としては以下の三つ「旅行代理店としての役割」、「広報」、「通訳・翻訳」があるとおっしゃっていました。そのなかで特徴的なのが「広報」で、村松さんはInstagramの運営を担当されていました。その経験を活かして今後は IT 業界の広報として働きたいとのことでした。



生徒自治会書記兼会計 高一E 宮部 尊

今期生徒会は本の寄付制度の確立、生徒会主催のイベントの開催、部活棟の整備を掲げて発足しました。結果、部活棟の整備を除いて全ての公約を達成することができました。

生徒会主催のイベントとしては、南山大学スペイン語学科の方をお招きして講演会を開きました。そこで、スペインやコスタリカについて、また海外生活についてたくさん興味深いお話を聞き、参加した南山生とともに深い学びを得ることができました。講演会の後にはお菓子を用意して講演をしてくださった方とおやつパーティーをして、その中で一対一の会話だからこそのお話を聞くことができました。

他にも生徒会主催のイベントとして、スプリング

カーニバルを開きました。この会は南山寮や駒方寮の子供達を招いて、ブラスバンド部や奇術部が公演を行うというもので、本生徒会は毎年三月に行われてきたこの行事の運営を行いました。

図書寄付制度については、初めは本を寄付することのできる常設の本棚のようなものの設置を目標に活動していましたが、寄付された図書の内容の判定の難しさや、その本棚の無法地化が課題として挙げられました。その後話し合った結果、常設の本棚をおくのではなく、生徒会執行部主催で本の譲渡会を定期的に行うこととして、それを制度化しました。今後はその時の執行部がその制度を使って譲渡会が行われることを期待しています。

半年の活動

風紀厚生委員長 高二D 江場 光慶

今期の風紀厚生委員会での活動は、二学期と三学期で異なる活動を行いました。

二学期は、部室棟の掃除です。部室棟はごみが落ちていることを見る機会が多いので活動しようと思い実行しました。一週間ごとに活動して目に見えるごみは一通り片づけていましたが、ごみが増え続けているので定期的に掃除をするか、ごみが増えないように何か対策をする必要があると感じました。

三学期では、テクノロジージャーや柔道場の裏にあるスペースの草むしりを行いました。この活動を行った理由は二つあり、一つは、この場所は学校の外から見える場所なので見栄えをよくする必要があると感じ

じたから、二つ目は、草がなくなれば、軽く運動を行うのに適切なスペースを確保でき、将来的に部活動で利用することができないかと思っただけです。今期の活動では、草むしりしか行えませんでした、きつかけは作ることのできたので来年からの生徒会活動でいつか実現してくれればいいです。

文化委員長 高二E 大橋 美輝

文化委員長としての一年を振り返り印象に残っていることは、大学や部活の紹介新聞の作成、議会のメンバーとしての役割でした。

新聞作成では、記事の内容等の工夫を通じて、学校の皆さんに有益で楽しめる情報を提供することを目指しました。前期の際は諸事情により僕は記事を提出できませんでした。前期の事実を不甲斐なく思い、後期の大学紹介の記事の作成の際には、実際に見学に行ったからこその視点をいかして、代表的な研究内容などではなく、外観や設備、周囲の環境など、まだ進路について考えていないような生徒でも、読んでいて楽しめるように意識しました。

また、文化委員長として議会に参加し、学校をよくす

るための取り組みに参加しました。議会では生徒会の公約を達成するため、いろいろな話し合いを通じ、普段接することのない同学年の人たちや、他学年とも交流を持てました。実際にその話し合いを通じ、生徒達のもういなくなってしまう本を学校に寄贈する制度が、一部条件付きで試験的に実施されるそうなので、議会のメンバーとして直接的には参加できないけれども、どう進むのが楽しみで、うまく行って欲しい限りです。

文化委員長としてのこの一年は本当に貴重な経験でした。

後期体育委員の仕事

体育委員長 高二D 芝野 諒平

後期体育委員では主に、スポーツ大会の計画を軸として活動してきました。まずスポーツ大会の種目を決めるに当たって、例年とは違う幅広い分野のスポーツを行いたいという思いがあり、したことのないスポーツを体験しそのスポーツに興味を持つてもらったり、みんなが楽しめるようにという事を体育委員全員が認識し、スポーツを決めることにしました。ですが思ったより新しくスポーツ大会でできるスポーツが見つからず最初は時が過ぎる一方でしたが、雨の日のスポーツを考えると上で、パラリンピックの競技にもなっているポッチャを取り入れようと考えました。そして晴れの日では通常のバスケットボールではなく、

ボートボールにすることによって、初心者でも楽しむことができると考え、取り入れることにしました。

そしてスポーツ大会当日は雨が降り、雨の日のスケジュールとなった為盛り上がらなかったらどうしようと考えていましたが、ポッチャをやった生徒から楽しくとても盛り上がったという話を聞いて、とてもほっとしました。そして体育委員のみんなが自分の仕事を全うしてくれた為、スムーズに進めることができ感謝しかありません。自分が委員長を務めた体育委員では素晴らしい委員に囲まれながらも完璧だと言える活動ができなかったなので、次の体育委員にはもっと良い活動をしてくれれば嬉しいです。

中学校の部

前期生徒自治会活動報告

生徒会活動の意義と挑戦

生徒自治会会長 中三C 名畑 潤一

前期生徒会長としての経験は、僕にとってとても有意義なものでした。その中でも特に「ハーフパンツの着用期間の改正に関する要望書」を提出したことが印象に残っています。

要望書の作成は、執行部と共に全生徒の意見を集めることから始まりました。そのために全体アンケートを実施し、皆の思いを受け止めることを心掛けました。しかし、提出後の学校側の反応を待つ時間は不安と期待が入り混じり、説明がない状況にさらなる不安を覚

えました。生徒の声が届いていないのではと感じることもありました。現在、この案については前向きに話が進められているとのことですが、実施までに時間がかりすぎていると感じています。

この経験を通じて、リーダーシップやコミュニケーションの重要性を再認識しましたが、同時に学校側にも生徒の意見を尊重し、改善していく姿勢を求めたいです。仲間と共に歩んできた道のりは忘れられない思い出です。執行部の皆がそれぞれの役割を果たし、アイデアを出し合ってくれたことが非常に心強かったです。

最後に、僕をサポートしてくれた執行部の皆と、様々な意見をくれた先生と生徒の皆さんに感謝します。短い期間でしたが、ありがとうございました。

前期生徒会活動報告

生徒自治会副会長 中三A 澤田 怜来

前期生徒会副会長としての約半年の活動を振り返ると、多くの充実した経験がありました。特に印象に残ったのは、議会の雰囲気がとても明るく活発な意見交換が行われたことです。メンバー全員が自由に意見を言える環境が整っていたため、様々な考えにふれることができとてもおもしろいと感じました。また、生徒会長の名畑君はとても責任感が強く執行部を引っ張っていつており、僕はそれに任せつきりになっていたのでも自分も努力しないといけない点がいくつも見つかりました。

一方で、今後の生徒会活動をより良くするために、定期的なアンケートや意見箱の設置などを行いフィード

バックの場を設け、生徒の声を反映させることや、SNSなどを活用して情報発信を積極的にすることで活動の透明性を高め、より多くの生徒に参加を促すことが大切だと思いました。

これからの生徒会の活動が一層活発になり、学校全体の団結力が強まってほしいと思います。引き続き、学校全体で協力し、より活気のある良い学校を目指していきます。

書記を務めて感じたこと

生徒自治会書記 中三B 伊藤 快

僕は前期書記を務めさせていただきました。書記の仕事内容は議会で議論した内容をホワイトボードに書き出し、よりよい議論にできるようまとめることでした。僕にとって初めての生徒会執行部だったので最初は戸惑うことが多くてうまくやれているか不安でしたが、執行部の仲間や生徒会顧問の先生にアドバイスをもらいながらうまく進めることができるようになりました。また、この活動を通じて感じたことが二つあります。一つ目は、前まで当たり前に過ごしていた南山での生活は過去の生徒会の先輩方によって作られてきたものだということです。そして二つ目は、校則の改正など南山のみんなのために行動することの難しさです。議

論がうまく進まず、詰まってしまうことも多くありましたが執行部員や多くの議員のおかげで最後までやり遂げることができました。これからは生徒会には所属しませんが、色々な面で南山をよりよい学校にしていきたいように頑張りたいです。約五ヶ月間ありがとうございました。

初めての生徒会の活動について

生徒自治会書記兼会計 中三E 石崎 隼多

こんにちは。前期中学生生徒会書記兼会計の石崎隼多です。僕は生徒会の活動をするまで生徒会のイメージがあまり湧きませんでした。そして実際に初めての生徒会に参加すると、生徒会は緊張感がありました。そのとき僕は生徒会の活動により真剣に取り込もうと思いました。そして生徒会で僕たちが議論をしたのが「ハーフパンツの使用期間の延長」です。近年は地球温暖化の影響で、気温が上昇しており、ハーフパンツの試用期間外でも気温が高い日があり、過ごしづらい日がありました。僕たちはこの議案を議会で賛成をうけて、早速実施したいと思いましたが、簡単にはいきませんでした。まず議会で賛成を受けたら、次は中学生生徒にアンケート

トを取り、その結果を集計する必要がありました。それはとても大変で友達にも協力してもらい、集計することが出来ました。そのあとも何度も調整を重ね、学校を代表する先生方を交えて、議論することができました。議論を終えたあと、僕は達成感で胸がいっぱいになりました。そして僕は生徒会の活動の難しさを知り、難しい課題を解決するため友達と協力することの楽しさも知りました。大変だと思いますが、後期の生徒会の人たちを全力で応援したいと思います。

～ありがとうございました！

生徒自治会庶務 中三B 北川 友太

中学校前期庶務を務めさせていただいた三年B組北川友太です。中学校自治会の会長になった三年C組の名畑潤一君から、是非一緒にやろうと誘ってもらい、最初は僕に務まるだろうか？皆に迷惑がかからないだろうか？と悩みましたが、一緒に自治会をやっていく友人の言葉に、この仲間とならがんばってやっていけると思い引き受けることに決めました。

三年間の学校生活の中で不便や必要と感じることはみんな意見が一致しないことが多く、時に意見を言い合う中で口論になる事もありましたが、少しでも南山男子部が良くなる様にとみんなの熱い気持ちがとても伝わり、なかなか思い通りに案件は通りませんでした、

毎週の議会が楽しく、僕にとってこの経験はとても学びになりました。和田先生。名畑君はじめ自治会の友人に感謝の気持ちでいっぱいです。後期の自治会の方々へ、是非頑張ってください。ありがとうございました。

活動報告

風紀厚生委員長 中三D 濱岸 真悟

前期風紀厚生委員長を務めさせて頂いた濱岸真悟です。今行なった活動について報告させていただきます。

前期風紀厚生委員会の活動としては校内の風紀向上のためポスター制作をしました。ポスター作りとしては、最近廊下を走る人が多いと感じたため、廊下には廊下を走るのを注意するポスター、下駄箱の砂が気になるため、下駄箱には下駄箱のきれいな利用を促すポスター、トイレの利用環境をよくするためトイレにはトイレの利用マナーへの注意ポスターをそれぞれ貼らせていただきました。このことを通じて学校の施設を利用するときのマナーの改善について考えさせられました。

このような活動が学校に劇的な変化を与える事はありませんが、コツコツと積み重ねることによって学校に大きな変化を与えることになるかと切に願っております。委員会の生徒や先生など協力して下さいました皆さん本当にありがとうございました。

学校のことを もっと知ってもらえるように

文化委員長 中三D 持永 壮志

元々、自分は文化委員、風紀厚生委員や議員を経験してきましたが、どれも支える方であり上に立つ仕事ではなかったので、委員長という立場がどのような難しさがあるかなどはわかりませんでした。ですが今回初めて文化委員長になり委員会を動かしていったり行動を実行するなどの大変さがわかり、この経験を活かしてほかのことにも積極的に参加していこうと思いました。

さて、今期の文化委員会では最初の委員会です。皆さんのやりたい事について案が出ました。しかし文化祭での混雑状況をクラスごとに見て回り放送していくという案は実行するのが難しく、文化祭のパンフレット

を作ろうと思ったら実行委員会の方がやってくれるということだったので、他に自分たちで出来ることはないかと考え、文化祭の時に南山の事を知ってもらおうとなり、南山に関してのクイズなどをポスターにして掲示し魅力を伝えたいということをしました。将来南山に入ってくれるかとも思いながらクイズを作るのは楽しく、また委員会のみんな1人ずつの考えたクイズをポスターで見かけた時はいい気分になりました。これからもこの学校を盛り上げられるように頑張りたいです

活動のわかりやすさを大切に

体育委員長 中三C 信宗 大輝

生徒会の活動が多くの生徒に理解され、関心をもたれるためには、活動内容をわかりやすく伝えることが重要です。たとえば、掲示板やSNSを活用して毎月の活動報告を行い、生徒が気軽に情報を得られる環境を整えます。また、学校集会で直接報告する機会を設けることで、全校生徒に活動の目的や成果を伝えやすくなり、参加意欲を高める効果が期待できます。

さらに、SNSを通じて意見を気軽に投稿できる仕組みを導入することで、生徒たちが「自分たちの声が反映されている」と感じやすくなります。これにより、生徒会が透明性を持ち、信頼される存在となることで、学校全体が一体となって成長するための基盤が築かれます。

具体的には、イベントの開催前にSNS上で意見を募り、生徒が参加したい企画を選んでもらうことが考えられます。これにより、実際に興味をもたれている活動を優先でき、参加者の満足度も向上します。このように、情報の提供と生徒の意見を尊重する姿勢が、生徒会の活動の理解促進につながるのです。

後期生徒自治会活動報告

生徒会会長として

生徒自治会会長 中三B 中村 勇太

僕は生徒会長としてこの南山男子部をより良いものにしていくために半年間議会で頑張りました。自分が思っていたよりも生徒会長の責任・重圧は大きく、うまくいかないことが多く、日々の学校生活の忙しさもあつて公約を達成するというところまで行くことができませんでした。しかし、学校をより良くするために少しでも貢献できたこと、そして伝統ある南山の生徒会長になったことを誇りに思っています。

そこで、自分は二つのことに感謝したいと思います。

まず、自分を助けてくれた生徒会役員と議会のメンバーです。生徒会長に選ばれた後に快く受け入れてくれた生徒会役員、そして議会にて活発に発言をしてくれた議員、その人たちのおかげで責任が和らいだのだと思います。

もう一つは僕たちとの話し合いの場を設けてくださった教師のみなさんです。僕たちは風紀厚生委員会と協力し要望書を出しました。案が完全に通らなくても生徒の意見がしっかりと議論されるのは素晴らしい環境だなと思いました。これで自分の生徒会長としての職務は終わりますが、バトンを後輩たちに受け継いで、高校の生徒会にも関わりたいなと思います。半年間ありがとうございました。

生徒自治会副会長 中三B 曾我心大郎

僕は中学一年生の頃から前期後期ともに議員を担ってきて、今回初めて執行部として半年間過ごしてきました。会長の中村君と一緒にチャレンジしようと声をかけてくれたので立候補しました。見事当選することができ、僕の半年間が始まりました。副会長として会長をサポートしながらたくさんの人の意見をできるだけ多く取り入れていきました。

僕たちは今回いくつかの公約を提示しました。公約を達成しようと毎週議論を続けて行きましたが、さまざまな立場の意見を聞き入れようとするとはやりとても難しく、なかなかうまく進めることができませんでした。自販機を四階に設置するという公約に絞って意見をまとめたのですが、お金の面や場所の面など様々

な問題点が重なり、まだまだ議論が足りないなと感じました。自販機の議論を続けながらも何か一つは変えたいと思い、一つの新しい意見を聞いて方向転換をしました。風紀厚生委員の方が提案をしてくれたもので、定期考査中の職員室への出入り、質問対応についてのことでした。現在は定期考査中に出入りが可能なドアが一つしか確保できておらず、人が混み合っている状態が多々見受けられています。そこでもう一つのドアも使えるようにしていただきたいという提案を先生方にさせていただきました。

このように自分たちが最初に考えていた公約をいざ実現しようとすると思いをまとめていくのがとても難しく、改めて生徒会の大切さを感じました。中学生としての生徒会はこれで最後ですが高校生になってからも学校をよりよくするために貢献したいなと思いました。いいメンバーに恵まれて充実した半年間を生徒会執行部として過ごすことができました。

初めての生徒会

生徒自治会書記 中三B 宮島 一碧

僕は南山に入ってからこれまで議員などをやったことなく、中学三年生で初めて生徒会書記を務めました。最初はとても不安で「上手くできるかな」と思っていました。たが、生徒会の人たち皆が、お互いに助け合っていて、とても安心しました。

生徒会の書記はおもに、皆が出した案や意見などを黒板に記すことです。最初はあまりうまくできませんでしたが、会長や副会長らが助けてくれてとても嬉しく、「もっとがんばらないか」と思いました。

後期生徒会で話し合った公約は主に、自販機を四階に設置する案と、中学側の職員室の入口にカウンターを設置する案でした。特に自販機を四階に設置する案

を中心に話し合いましたが、お金や場所の問題があり、この案は終わってしまつて、改めて生徒会の大変さを知りました。

このように僕は生徒会を通じて話し合いの大変さや、学校生活をよりよいものにする気持ちなど、いろいろ学びました。学校生活において生徒会はとても貴重な体験であり、これから的高校生活の役に立てればなと思いました。

生徒会役員をやってみて

生徒自治会書記兼会計

中三 B 細川 遙希

僕は生徒会長の中村くんには生徒会役員をやらないかと誘われて書記兼会計をやろうと決めました。誘われた時はどういうことをやるのだろうという不安と、大変そうだからやめようかなという思いがありました。しかし、自分が学校生活で思っている、変えた方がいいと感じていることを改善できるのではという想いと、何かしら中学生生活の中で勉強以外のことを頑張りたいと思っていたので、やってみようと思いました。

ただ、病気にかかってしまい議会にはあまりに参加できませんでした。僕の仕事を他の生徒会役員にやらせてしまったという事に申し訳ない気持ちでいっぱい

になりました。それでも生徒会長や副会長、各委員会の委員長、各クラスの議員たちのおかげで、中学生側の職員室のドアからでも先生に質問できるよう意見書を提出しました。まだ通ってはいませんが何かを作り上げたという達成感を感じることができました。

最後に、もし生徒会役員に誘われたならば是非ともやってみてください。学校生活をきつとより良くすることができるよう。

僕の反省点

生徒自治会庶務 中三B 池田 晴基

僕が生徒会の庶務になって、反省点と良かった点、次に繋がるの良いことを書こうと思います。

まず反省点として、僕の仕事は議会に來ない人々を呼びに行くことでしたが、僕はほとんど連れてくることができず、途中からどこにいるかさえも把握できていませんでした。また、決められた議題について話し合っているときに、他の皆は発言できていましたが、僕はあまり発言できませんでした。これは三年生で、しかも庶務という役ながら、とてもいけないことだと思いました。話についていくあまりにこのようなことになってしまい申しわけなく思います。そして、授業が長引いてしまった際、僕はノートをとることを優先してしまい、たまに議会に遅れ

てしまったことです。振り返ってみると自分の不甲斐なさを痛感しました。

次に、良かった点は、僕は一回も議会を休まなかったことです。遅れてしまうこともありましたが、必ず行くようにしました。また僕は必ず議題をしつかり聞いていました。恥ずかしながらこの二つしか良かったことはありません。

そして、次に繋げたら良いと思うことは、適性のある議員を選ぶことです。役立たずな庶務が言えるようなことではありませんが、朝会ったはずの議員が議会に來ないのは良くないと思いました。なのでクラスによって議員の決め方を投票にそろえると良いと僕は考えます。また、議会で決めた案をもう少し先生の中で通りやすくしても良いと思います。持永君が考えた「自販機を増やす」という案を通したときにどうしても通りにくく、頭をかかえていたので、彼のような案はたくさん前までにもあったはずなので、おこがましいことをいうようですが、今後は案の通りやすさを変えても良いと思います。

最後に、僕はこの生徒会活動を通じて、話し合うことの大切さや、考えることの大切さを学ぶことができました。

学校が少しでも良くなるように

風紀厚生委員長 中三D 持永 壮志

前期に文化委員長を務めたのもあり、後期も何か学校のために貢献したいなと思い、中一の時に経験してきた風紀厚生委員会をやりたいなとなり、また引つ張って行きたいなと感じ、委員長になり今回いろいろな活動をしたので活動報告をします。

まず初めに四階に自動販売機の設置を検討して要望書も書けたのですが、先生との話し合いがなかなかうまくいかず、結局没になり、どうすればよいかと感じ、逆に委員会の生徒や先生が困っていることを聞き、出た要望は「椅子がこわれやすい」と「定期テスト期間中に遅刻カウンターからだ」と先生が見えにくく呼びにくい」という中一、二ならではの意見も出て、これらの問

題をどのようにみんなと協力し解決できるか考え、そしてまとめて要望書を提出しました。

また新入生にも気持ちよくテストを受けてもらうために、入試の前日に普段の掃除でやらないような窓淵や下駄箱、大階段なども雑巾で掃除しました。

今回、風紀厚生委会は生徒会執行部と連携しながら多くの要望書を提出することができました。少しでもこの学校生活がよくなるように活動しました。

文化委員会活動における挑戦と成果

文化委員長 中三D 服部 聡真

後期の南山中学校の文化委員会では、部活動の内容をまとめた新聞の作成に注力しました。企画段階では委員会で十分に話し合いを行い、各部活動のメンバーにアンケートを実施して活動日、活動時間、実績、活動人数、アピールポイントなどの情報を収集しました。収集したデータを基に、Microsoft Wordを使用して新聞を作成し、記事の執筆やレイアウトデザインにも工夫を凝らしました。私自身、初めての委員会活動であり、会議時に意見をまとめたり司会進行を担当することに苦労しましたが、メンバーと協力しながら多くの経験を積むことができました。特に記事の校正作業では、チームワークの重要性を実感し、互いに助け合うこと

で質の高い新聞を完成させることができました。最終的に新聞を完成させ、部活動の魅力を多くの生徒に伝えることができたことはとても嬉しく思っています。今後は新聞制作に加えて、他の委員会に立候補する機会があれば積極的に挑戦し、さらなる学校の活性化に貢献していきたいと思っています。また、再び文化委員を務める機会があれば、新聞以外のプロジェクトにも挑戦し、文化委員会としての幅を広げていきたいと考えています。

中学後期議長

生徒自治会議長 中三D 田中伸之輔

生徒会活動をより良いものにする為には、みんなの協力と工夫が大切です。生徒会は、学校生活を楽しく快適にするために活動する組織です。一部の人だけ頑張るのではなく、全校生徒が関心を持ち協力することで、充実した学校生活に近づけるものだと思います。

そのためにまず、生徒会が目指す目標を明確にし、全員が理解できるようにすることが重要です。例えば『みんなが気持ちよく過ごせる環境をつくる活動』『生徒の意見を反映した学校行事を企画する』といった具体的な目標を決めると、活動の方向性がはっきりします。

次に意見交換の場を増やすことも大切です。生徒会のメンバーだけでなく、一般の生徒も自由に意見を出

せる場があれば、より多くの人の声を取り入れた活動ができます。方法として、アンケートの実施や意見箱を設置するのもよいと思います。また活動報告を積極的に発信し、みんなに知ってもらうことも大切です。ポスターやインスタ、朝の会などでの発表を活用して、生徒会の取り組みを発信していくことも大切だと思います。活動内容がわかれば、関心をもつ生徒も増え、参加してくれる人も多くなります。

最後に生徒会のメンバーはみんなで僕たちの南山を作っていくこうと責任感を持ちながらも楽しく活動していくことが大切です。その気持ちは周りにも伝わります。みんなで話し合いながら工夫を重ねながらより良い生徒会活動を目指していきましょう。

南山高等学校文化委員会新聞

2024年6月
発行



2024年度前期南山高等学校文化委員会では新聞を発行することになりました。テーマは「部活動」です。自分が属している部活動以外のことはなかなか分からないものです。毎日どんな活動を行っているのか、楽しさはどんなところにあるのかなど、興味深い内容となっています。是非お楽しみください。

陸上部

陸上部は中高合わせて部員40名ほどで活動している。練習は主に中、長距離バートと短距離バートに分かれており別々で練習している。練習場所は主にグラウンド、集習池公園、川名公園、南外周近辺の坂そして陸上競技場などである。自己ベスト更新や県大会出場を目標に活動している。

中・長距離と短距離の概要
(中・長距離)

この競技は長い時間走るため体力的にも精神的にもつらいが、自分を限界まで追い込むところが醍醐味だ。部員は400m、800m、1500m、駅伝に出場している。練習では体力、心肺機能やスピードを強化している。具体的には坂ダッシュや一定の速度を保つペース走、ダッシュとジョグを交互にやるインターバル走をしている。

(短距離)

この競技は短い距離をいかに無駄なく速く走れるかである。だが、コツを掴むのが非常に難しい競技であり、記録が伸び悩むこともある。その分、自己ベストを更新したらとてもうれしいものである。部員



(松田 悠希)

は100m、200m、4×100mリレーに出場している。練習では絶対的なスピード強化と筋力トレーニングを行っている。具体的には、加速走や、坂ダッシュ、マーカーを走らせながら走るマーク走、スタートダッシュ練習をしている。陸上部は基本土日活動がなく、練習時間は圧倒的に短い。その分、一つ一つのことに意味があり、また部員自身が主体性を持つことを大事にしている。だからこそ、しっかりと物事を考える力というのを養えるのではないかな。

私は今回の取材を通して、陸上部は真面目に取り組んでいる人こそが結果を残していくものだと感じた。個人競技である以上、結果がすべて自分に戻ってくる競技である。自分から知識を蓄えて実践し、それを後輩に伝えることがこの部活動では必要であり、一番大事だということを感じることができた。

生物班

生物班は総勢四十人で、水、金曜日の週二で活動している文化部だ(顧問宮下先生、顧問勝山先生)。普段の活動は部室で飼育している生物の世話や、興正寺などの場所へ行き昆虫採集を行ったり、天白川などの川へ行き、はざやふなど魚を取ったりしている。部室では亀(ミシシippアカミガメ)、イシガメ、ミシシippアカミガメとクサガメのハーフ、テラリアを飼育している。文化祭では毎年飼育している生き物の展示や、部員の個々の研究を発表している里山メダカなどが、賞を獲得した経験もあるそうだ。

年に二回ある合宿は非常に人気であり、生物班の魅力のひとつである。春は、日間賀島へ行き(泊二日)釣りの活動をして、夏には、沼津(行き二泊三日)釣りや山登りをして生物と触れ合っている。新歓フェスやサマーセミナーでもワークショップなどの食べ物や水などの飲み物を販売して活躍している。このように色々な活動をしている生物班で一番楽しいところ、一番つらいことはどこかと聞いた。やっぱり昆虫採集や釣りをしているときに寒

英語部

英語部は、英語を通して様々なアクティビティをする部活である。活動日は、週三日程で、現在、十二名在籍している。通常は、学校の英語学習の予習復習や、英語検定の対策として、問題集の演習を



しいですね、一番つらいことは飼育していた生物が亡くなったときだね、部室で長年にわたって愛情をこめて育てている生物が亡くなると部室に行くのがつらくなってしまう。」と少し悲しい顔をしてみえた。今回取材して、生物班はちゃんと生物を愛して飼育しているのだなと思った。生物班は文化部というイメージが強く、体力が必要な部活だと初めて気づいた。自然に触れることが減ってきている今、釣りや採集などをして楽しめる生物班は素晴らしい部活だと思った。

(山本 珠也)

し、要望に応じて、ライティングの添削やスピーキング練習をネイティブの先生としている。もちろん毎回、勉強ばかりするのではなく、その週、その日によって異なり、週二日ほどは、自分の学年とその他の学年の仲間と一緒に英語を使ったゲームをしている。英語部というと、勉強の延長線のように思うかもしれないが、実際は、英語を楽しく、生産的に学べる場である。

他の部活動と異なった点として挙げられるのは、何より、「気軽に」「マイペースで」活動できることである。学習内容やアクティビティ事項の強制は当然なく、英語を共に学ぶという環境のもと、それぞれが自由に活動内容を決めることができる。これは最大の利であり、部活を継続しやすい理由でもある。

さて、ここまででは通常の活動を紹介したが、イベントとしては何があるか、それは文化祭である。文化祭では、英語を通してエンターテインメントを提供することを目標としていて、昨年には先單方を中心として、オリジナルのボスターや日本アニメ短編の英語吹き替え版の公開を達成させた。今年も、部長を中心にアイデア出しが

進められている。

このように英語部では英語を通して、様々なアクティビティを行っており、他学年のメンバーとの交流機会、ネイティブスピーカーによる直接指導など、普段の学校生活では得られないことができる。今の世の中では、英語を抵抗なく話せることは、かなりのアドバンテージである。音で感覚的に覚える英語は、独学では決して学ぶことができないものであるだろう。「気軽に」参加でき、楽しく外国語を学べる。これが「英語部」である。

(左石田 結豊)



硬式テニス部

硬式テニス部は中学生四十人、高校生二十人で活動している。練習はテニスコートと中庭の二か所で行っている。練習を通して技術を磨き、全部員が試合に勝つことを目標にしている。その上で、少ない

時間でたくさんの部員が効率よく練習できるように、高校生を中心にメニューを作成している。試合は春のインターハイ、夏の新人戦が中心で他にも様々な大会に積極的に参加している。今年の春のインターハイでは、名南地区で五位になり県大会に出場し、ベスト十六まで進出した。

テニスとはラケットを使いボールを打つスポーツである。テニスのゲームはシングルスとダブルスの二種類である。シングルスは一人で行うので戦術がシンプルでプレイヤーのスキルが重要である。ダブルスはシングルスに比べて戦術の種類が多く、ペアとの相性が重要である。テニスは動くと同時に考えるスポーツであり、更に試合時間が長いのでとても疲れるが、試合に勝利した時は、疲れが吹き飛ぶくらい嬉しいものである。

硬式テニス部は部員全員がGOODプレイヤーになることを目指している。GOODプレイヤーになるということは、テニスに関わる全ての人に感謝し、人間性とテニスのプレイヤーの両方を完璧にしておくことである。普段サポートをしてくれる両親や顧問の先生、大会を運営している人など、テニスを行うにはたくさんの人のサポ

ートが必要であり、その全てに感謝し、テニスに真摯に向き合うことで、人間として成長しようとするのである。

私は、硬式テニス部は、テニスを上達させ、己を育てることが出来る場所であると考えている。団体戦では部員が一致団結して勝利を目指すところもとても魅力的であり、部活の仲間と切磋琢磨し成長していくことができるこの部活に所属してよかったと思っている。

(竹内 悠)



将棋部

部員数は二十人で、練習では主に対局を行っている。できるだけ毎試合違う相手と対局し戦法も変えている。知っている者同士で楽しく喋りながら対局でき、飽きることがない。新入部員やルールが分からない人には一から分かりやすく説

明している。

これまでに文部科学大臣杯で三位になったことがあり、この春の大会では予選を通過したものの本戦では一回戦で敗れてしまった。

将棋は対人ボードゲームなので勝ち負けがはっきりしているところが楽しいところで、戦術が多すぎて頭に入らないことが難しいところ。また、負けた場合は自信がなくなることもあり辛い。

将棋部では「負けは恥ではない」ということを大切に行っている。負けてしまえば恥ずかしいことではあるが、負けを糧として次にいい対局をすることが大切だということだ。ちなみに顧問の宮下先生は強くて生徒はなかなか勝てないらしい。

将棋部は学年間の垣根がなく、話を聞きに行つたときもとても入りやすい空気だった。少しでも興味がある人は将棋部を訪れてみてはどうだろうか。

(浅井 香航)



2025年2月
発行

南山高等学校文化委員会新聞

2024年度後期南山高等学校文化委員会では前期に続いて新聞を発行することになりました。テーマは「大学」です。日本には国立、公立、私立あわせて796校の大学があります。その中から自分にふさわしい大学、学部、学科を選ぶことは簡単なことではありません。これらの記事がその手助けになれば幸いです。

上智大学

上智大学には三つのキャンパスがあり、その中でも四谷キャンパスに学部学科が集中しており、JR中央線・東京メトロ丸ノ内線・南北線の四ツ谷駅から徒歩三分と非常にアクセスがよい。また、都の中心に存在していることから、インターン・サークル・就職活動にも専念しやすい。

上智大学の歴史を遡ると、一五四三年のフランシスコ・ザビエルが日本人の資質を高く評価し、上智大学設立に結び付いた。一九一三年に上智大学は開校し、二〇一三年には現教皇フランシスコが来日している。

上智大学には三つの特徴がある。一つ目は、グローバル化対応力を身に付けられることである。充実した語学プログラム、海外学習、国際交流プログラムが用意されており、文部科学省の「グローバル30」の拠点大学に選定されている。グローバル社会で活躍していきたいと考える受験生に最適だ。二つ目はカトリック

教育が取り入れられている事だ。「他者のために、他者とともに」という理念のもと少人数教育が行われている。から教行こうことで教授たちから近い距離で学ぶことができる。また、上智大学には日本で唯一のカトリック神学部があり、キリスト教カトリックの教を専門的に学べる。三つ目は専門性が高い学部が多く設置されている事である。国際系の学部学科が充実している点は受験生により魅力的に映るだろう。上智大学は自分のやりたいことが見えてきた受験生におすすめであり、自分のやりたいことを学ぶことのできる最適な学校だと私は思っている。（竹内 悠）



ソフィア君

国際基督教大学

国際基督教大学（略称ICU）は東京都三鷹市に所在している。国際基督教大学までのアクセスは、武蔵境駅からバスで二分、三鷹駅からバスで二〇

分、調布駅からバスで二〇分の後、徒歩一〇分を要する。日本と北米のキリスト教関係者は、二〇世紀初頭から、日本の地にキリスト教大学を設立しようという夢を抱き、その実現を祈り求めてきた。この長い祈りが、第二次世界大戦の終戦を期に、悲惨な戦争に対する反省と次の世代に対する責任として、新たな使命を帯び、ICU創設委員会が設立されるに至った。

国際基督教大学は、キリスト教がベースとなっているため、敷地内にチャペルがあり、「キリスト教概論」が全学生の必須教養科目となっている。また、国際性の実現にも力を入れており、充実した英語カリキュラムや九月入試制度が存在している。国際基督教大学はリベラルアーツに力を注いでいる。人が一人の人格として自立し、しっかりとした専門性を持ちながら、同時に全体を俯瞰し、知的な、あるいは人間的なネットワークを構築し、課題解決へ向けてリーダーシップを発揮する能力を育てることを理念とし、システム化するのがリベラルアーツである。そのため、国際基督教大学の入試では、自分の可能性の翼を最大限に広げることのできる資質があるか見極めるため、従来型の個々の分野の得点で能力を測る入試で

はなく、全体を見渡す能力、大枠を直感的に捉える能力、想像力を働かせて課題の解決に当たる能力を測る、ICUならではの入試を行っている。

国際基督教大学では、年三回本学キャンパスにてオープンキャンパスを行っている。なお、年に一回ずつ、名古屋での出張オープンキャンパスやオンラインオープンキャンパスも行っている。南山生でも、東京に行かずにオープンキャンパスに参加することができる、気軽にICUについて知ることができる。（山田 光穂）

航空保安大学校



航空保安大学校は航空管制科、航空情報科、航空電子科の三つの学部で構成されている国土交通省管轄の国立大学である。場所は大阪府泉佐野市のリンくタウンにある。この大学の大きな特徴は二つあり、一つが全寮制という点である。校舎の隣に学生寮がありそこで

全員暮らしている。二つ目は学費が無料で、在学中にも給料を貰いながら学べるという点である。学生は国家公務員という扱いなので法律に基づいて給料が支給される。

そしてこの学校は学科が特殊なもので、様々な実習室がある。その主なものは、管制実習室と運航援助実習室、システム実習室である。管制実習室は、飛行場やその周辺空域を管制する訓練を行う実習室である。運航援助実習室は、運航にかかわる関係者に情報を提供する訓練を行う実習室である。また、システム実習室は、飛行機の高度なシステムについて学ぶ実習室である。このように航空保安大学校では高度な機器を使って航空業界で働く人を育成している。だがこの学校に入るのも、入ってから大変である。高倍率の試験をクリアして入学し、さらに大学で様々な資格を取ってやっと実践の場に立てるのである。

また、大学に出願する際、学科で募集年齢が違ふ。航空情報科と航空電子科は高卒以上が対象で、航空管制科は卒以上が対象となっている。またクラブ活動もあり、体育系クラブとしてはテニス、バレーボール、サッカー、フットサル、ソフトボール、バスケット



横浜国立大学

横浜国立大学は、全学部学科が横浜市保土ヶ谷区に位置する常盤台キャンパスに集中している。この場所は、横浜駅西口からのバスが利用でき、市営地下鉄の三ツ沢上町駅から徒歩十六分、羽沢横浜国大駅から徒歩十五分である。横浜駅は多方面への路線がのびていて都心をはじめとした各所へのアクセスが良好である。

ポール、バドミントン、卓球が、また、文化系クラブとしては軽音楽、ITなどがある。

最後に私はこの学校を調べて、世の中にはいろいろな大学があるのだと感じた。航空保安大学はかなり専門的な学科しかない大学で、航空管制官などになる人は必ず行かなければならない。その分ほかの大学にはない設備や特徴があるのだと改めて強く感じた。

(松田 悠希)

本大学は一九四九年に新制国立大学として発足し、現在は五学部五研究科を擁しており、学部の強化を目標としてきた。近年は文部科学省から地域貢献型大学に指定されており、地域のニーズに応える人材育成・研究を推進すると同時に、国際研究拠点としての環境整備にも力を入れている。

ここでは特色を二つ挙げる。一つ目は多様な人と交流できること、二つ目は経営学部があることである。一つ目については市内の他大学間に単位交換制度があり、各大学が提供する講義を受講することで所属している大学の単位となるため、他の大学の学生と交流できる。加えて副専攻プログラムもあり多岐にわたって学習・交流ができる。二つ目については、国立大学で経営学部として単体で設置している大学は本大学と神戸大学のみとなっており、本大学では国立大学という強みを生かし、企業と合同で行う授業もあるという。

調べると本大学は広く知識をつけて実践をしてみたいという人に合っているように感じた。なお、オープンキャンパスの日程は六月二十一・二十二日。今回の文化委員会の新聞で皆様が大学を見つけること

に少しでも興味・関心を持っていただけたら幸いである。

(曾田 航平)



かもめ先輩

琉球大学

学年に一人は夢見ることがあるかもしれない琉球大学に見学に行ってきた。実際に自分が見に行つたときに思ったことは、案外本州の大学と雰囲気は変わらないということだ。行った日が長期休みだったから、学内に学生の姿はあまり見られなかったが、春夏ぐらいの本州の学生と同じような服装の人が多かった。

自分が驚いたのは学内の橋の下にある池だ。大きすぎて初見だと池と思えない。また、自販機にブルーシールがあったり、探せばすぐ沖縄要素が見つかり、歩いていて楽しい。

この伸び伸びとした空間で過ごす四年間は、本州では決して味わえないものになるだろう。理系なら気候や亜熱帯の生物であったり、経済学部のように



東屋



運河のような池

な文系なら基地による経済への影響であったり、ここでしか学べないことも多い。4年間だけではもったいないかもしれない。家賃は安く、本州から遠いから、親元を離れ自立したい人にとってはいいかもしれない。気になったら是非資料請求してみよう。

(大橋 美輝)

南山高等学校文化委員会新聞

2025 年 3 月
発 行



2025 年 2 月、高校 2 年生は「沖縄」へ修学旅行に行きました。今回の新聞では、これから沖縄へ旅をする人へ、是非事前に学んでおいてほしいことを中心に記事を作成しました。現在の沖縄はさまざまな側面をもっています。どのようなことに興味をもち出かけるにしても、旅を経験した人の声を参考にしてください。

高二 A 竹内 悠

私たちは、二月十六日から二月二〇日の五日間で沖縄に修学旅行へ行った。修学旅行は普段の生活と違う特別な体験をすることができ。本記事では修学旅行の前に知識として学んでおいた方が良いため、修学旅行で印象的だったところなどを紹介していきます。

まず修学旅行に行く前に、沖縄戦について学ぶべきだと私は思った。それは修学旅行でアプチラガマや海軍司令部壕などの実際に戦争で使われた場所に行ったときに、その当時の情景を想像しやすいからである。沖縄戦がなぜ始まってしまったのか、ひめゆり学徒隊はなぜ充足したのかなど、事前調べて、修学旅行を有意義なものにしてほしいと思う。

私が修学旅行で印象的だったのは「コザ街歩き」である。コザは沖縄市の中心市街地であるコザ十字路から胡座地区、中の町地区まで広がる文化圏の愛称であり、嘉手納軍事基地がとて近い場所である。この場所は戦後沖縄がアメリカに占領されていた時の歴史をよく見ることができ。私は、占領時の沖縄について

知識が浅く、一九七二年に返還された事などしかなかった。そんな私にとってガイ

ドさんのお話は新鮮で、沖縄戦について新たな視点で考えることができるようになった。コザには当時の資料や街並みが鮮明に残っているのだから、ぜひよく見てほしいと私は思う。

私が、修学旅行で感じたことは、学生の結束力が高まり、人間として成長できたことである。約二〇〇人の生徒が同じ屋根の下で五日間過ごし、学ぶことで、来年の高校三年生の生活に向けて準備ができたと思う。修学旅行ではメリハリをつけて楽しんで欲しい。私たちができていたかはわからないが、学習の時はしっかり学び、自由散策の時は度が過ぎない程度にしっかりと楽しんでほしい。高校生活で修学旅行は大きな思い出になる。楽しい思い出にできるようにしっかりと準備をしよう。

高二 D 桑田 大輝

私は主に平和学習で考えた事にについて述べる。私達の学年は平和学習として、沖縄戦について知ることができる、様々な場所を回らせていただいた。以

下、その場所の感想である。アプチラガマで、手に持っ

ているライトの光を消すと、本当に真っ暗で命の危険な兵に見つかるなどがないのにも関わらずとても怖かった。生きて帰った方がいなかったのが光の届かない一番奥の空間だったという事にも納得した。

ひめゆり平和祈念資料館で、元ひめゆり学徒隊の方の証言ビデオや、実際に使われたノコギリや、薬品の入っていたビン、学校の教科書等の展示がどれも印象に残った。自分達と年齢の変わらない人が、切断了手や足をパケツに入れて危険という事実が怖くなった、改めて戦争の恐ろしさを感じた。

沖縄平和祈念資料館で、沖縄戦の写真や、展示されていた戦争下の行政などの説明文を読んで、沖縄戦がどれだけ民間人に被害を与えたのか、本来民間人を守るべきである行政も積極的に学生の名簿などを作成したという事実を知って、戦争につながる全ての行為を拒絶し、平和を守らなければならないと考えた。

海軍司令部壕で、狭いながらも通路や部屋などはこの表現は適切ではないかもしれないが一見すると綺麗な造りになっていた事に驚いたが、それが

ツルハシを使って掘ったという説明文を思い出し、衝撃を受けると共に設置時の苦労という

うか、大変さは想像にたかくな。壕に入る前の説明で、あの狭い通路に何人も兵隊が座り込んでいた。排泄も壕内でするしかなかった。暑い思いが酷いものであったというお話を思い出し、息が苦しくなった。ガマとはまた違う怖さを感じながら、出口近くで外の光、新鮮な空気を吸って心が軽くなったのを覚えている。

平和学習を通して、沖縄戦の悲惨さを学んだ。戦争はダメと想っていたつもりであったが、実際に現地で平和学習をする前ガマなどにいる前のそれは、表面上のものでしか無かった事を思い知らされた。ガマで本当に真っ暗で怖くなった経験や、ひめゆり平和祈念資料館・沖縄平和祈念資料館で展示されていた実物、説明文や証言文を読んで本当に戦争や、戦争に関わる一切の事をこれから先の自分たちの時代で否定しなければいけないと考えた。

最後に、事前学習として知って述べる。それは、太平洋戦争の流れである。戦況やどこを侵略し、どこを奪われたのか、何故その島を取らねばならぬのか等を詳しくではなくとも

一通り知っておいた方が理解が深まる。逆に全く知らない状態だと、現地へ行っても、何が起ったのか、それは歴史の中でどの辺の話であるのか分からなくなってしまうと思うので、太平洋戦争の流れくらいは知っておくべきだと思う。



令和六年度中学文化委員新聞

〈テーマ〉

南山中学校男子部活動紹介！中学文化委員会に所属している人の部活動に隠された秘密とは？

〈取材者・内容〉

南山中学校男子部活動生徒会文化委員の生徒の中で各部活動について4つの観点でアンケートを取りました。

質問① 普段の活動日・活動時間

質問② 実績など

質問③ 活動人数

質問④ アピールポイント

※令和七年度よりソフトテニス部は廃止されました。



HOMINIS DIGNITAS



I バドミントン部

普段は、中学生と高校生の活動日は分かれており、中学生(月・火・水・金・土)・高校生(月・火・水・金・土)です。平日は、15:45~17:30 土曜日は、13:00~16:00です。

名古屋市学生バドミントン大会男子団体優勝、第三位、ダブルスでは第三位を獲得しました。活動人数は七十人でバドミントンを楽しくやっている部活です。

バドミントンがうまくなるコツや技などを先輩や先生が教えてくれる

部活動紹介

発行

中学文化委員

ます。一年生の最初の頃はきつい練習も多いですがしっかり練習すればうまくなれます。

集まって話し合っています。活動する曜日は決まっています。文化祭ではプラタリウムで、部活動部門第三位を獲得しました。

六十人で活動しています。年五回野辺山、関ヶ原、石垣島、皇神温泉に行き天体観測をしたりします。とても自由な部活です。

III 野球部(中学・軟式)

普段は月曜日から日曜日まで毎日活動しています。時間は日によりですが平日は終礼後18:00~土曜祝日は18:00~20:00です。月・水・金は、グランドで主にバッティングの練習をしており、火・木はグラウンドを使って守備などの練習を行っています。土曜日は、走攻守すべてをやっています。夏休みは三動一休で(お盆休み、令和六年度は八月九日~八月十六日、冬休みは日曜以外毎日練習(正月休み、令和六年度は十二月十九日~一月四日)です。十一月末から二月初めまでは体力づくりのトレーニングです。

九月にあった新人戦、予選リーグを第一位で突破してベスト16に入りました。十一月にあった私学祭ではベスト4、一年生大会もベスト4でした。中学一年生十一人、中学二年生十二人で、合計二十三人です。

アピールできる点は、上下関係が緩い点、野球未経験者でも一二年間しっかり練習すればスクメンをされる点、バットが新しい点、マシンがある点、体力をつけることができる点です。

IV 理科部生物班

部員は40人ほどおり普段の部活では主に飼育している鬼などへの餌やりや水槽の音取りをしています。活動日は月・水・金ですが夏休みは文化祭の準備をしたり学校外へ採集に行ったりするための活動日以外に活動することもあります。その甲斐あってか文化祭では金賞を受賞したこともあります。活動は自由参加が基本なので用事等での融通が利きやすいです。

二人の部員の個人

NANZAN Hominis Dignitas

V 硬式テニス部

普段は、2か月に1回のペースで部内戦があり、対戦成績によってAチームからPチームまで、強さ順に分けられます。リーグ戦四チーム。AチームはFチームの人の活動日は(火・水・木・金・土)・GチームはPチームの人は(月・火・水・金)です。火曜日は土曜日はトレーニングを行っており、夏は10:00まで、冬は16:00までです。

高校の実績は、インターハイ予選で県ベスト16、新人戦で県ベスト8でした。

中学では、県中学生で県六位、県新人戦で県ベスト8でした。

高校生(一・二年生二十一人、中学生(一・三年生)四十五人で、アピールできる点は、年に数回のランニング戦でAチームのリーグを上げられて上級生とも練習できる点、コートが四面、ボールがたくさんあるのてたくさん練習できる点、優しい先輩が多い点です。

VI 奇術部

普段は、月・水・木・金曜日に活動しており、土日に訪問があるため参加できる人は参加します。時間は基本、15:30~17:00までで、内容は、トランプマジック、ジャグリング(皿回し・ディアポロなど)、イリュージョン(チェアスぺンション・串刺しなど)の練習があります。

実績としては、文化祭総合優勝二連戦、ステージへの多数出演、五大番組「活にはまってきたてみた」への出演、高文連ボランティア専門部門優秀賞、能登半島地震のボランティア(中学三年生が参加)。

中学一年生十七人、中学二年生十八人、中学三年生七人、高校一年生五人です。

アピールできる点は人の前で発表ができ、またボランティア活動を部活で行っているためボランティア活動に参加できる点です。

南山中学校男子部

南山高校男子部

体験入部 お越しください！

VII パソコン同好会

普段は、火、水、金曜日に活動しており、夏は二〇…〇まで、冬は二…〇まで活動しています。パソコン講座班、動画編集班、マインクラフト班という三つの班に分かれて、それぞれの活動に取り組んでいます。

第1号
二〇二十四年度の文化祭では、部活動・有志部門において銅賞（アカデミック賞）を受賞し、成果を上げることができました。

今は総勢六十四人で活動しています。

自分の興味や関心に合わせて、先輩や友達とともに新たな知識やスキルを探求できるのが大きな魅力であり、そうした活動を通じて、自分がやりたいことを見つけることができ、さらにその分野を深く学び、極めることができます。

VIII 陸上部

普段は、平日毎日活動しており休日・祝日は休みです。活動時間は、夏：16:00～18:00、冬：4:00～7:00です。

過去に全国大会に行った先輩がいます。

中学一年生十人、中学二年生八人、中学三年生十三人、高校一年生六人、高校二年生八人の総勢四十九人です。

アビールできる点は、先輩と後輩の信頼が厚い点、気を遣わずに話せる点です。

中学文化委員新聞社

新中学一年生の皆さん、在校生の皆さん、他にも南山中学・高等学校男子部には運動部から文化部まで幅広い分野において多くの部活動があります。今部活動に所属していない人、掛け持ちしたいと思っている人、新しく中学一年生で入ってきた人はいと思う部活があればぜひ入ってみてください。

令和六年度中学文化委員会一同

令和7年[2025年2月17日(月)]発行

新たなモビリティサービスへの参入、カーボンニュートラルの実現がある。インバウンド需要への対応に関しては、政府の2030年までに訪日外国人観光客を6000万人にするという目標に対応するため、羽田空港では新しい飛行経路の運用を開始したり、成田空港では滑走路の延長や新設を計画したりしている。またDX化の推進においては将来的な人手不足に対処するためにモバイル端末で航空券の予約から搭乗までの一連の流れが完結できるようデジタル化を加速させている。新たなモビリティサービスへの参入についてはドローンや空飛ぶクルマといった技術の開発に注力している。カーボンニュートラルの実現に関しては日本では2030年までに温室効果ガス排出量を2013年比で46%削減し、2050年までにはゼロにすることを目標としている。これを達成するために政府と民間企業が協力し、新技術や低燃費機材の導入、SAF(持続可能な航空燃料)を使用するなどしている。

6. まとめ・感想

以上JALの財務について調べた。JALとANAは数値から見るとどちらも優良企業であると考えられる。またコロナによって大打撃を受けたJALやANA、航空業界はコロナ禍後、航空事業でない事業に注力してきたことによってコロナ禍前を上回る成績を出した。今回のコロナ禍を経て生き残るためには社会の環境に対応するため進化しなければならない赤の女王仮説的なものを感じた。個人的にJALの投資先で興味深いのは超音速旅客機「Overture」に対する出資である。これが実現すると通常の所要時間の半分で済みより海外に行きやすくなるからだ。私はこれから航空業界全体をみるとともに、主にJALの動向に関して注視していきたいと思う

参考文献

- ・日本航空株式会社,「IR情報」, <https://www.jal.com/ja/investor/>, (2025年3月9日)
- ・全日本空輸株式会社,「株主・投資家情報(IR)」, <https://www.ana.co.jp/group/investors/> (2025年3月9日)
- ・IR BANK,「IR BANK-企業分析・銘柄発掘」, <https://irbank.net/> (2025年3月9日)

どちらも営業CFがプラス、投資CFがマイナス、財務CFがマイナスの優良企業である。ANAの方がJALより設備投資額が多く、ポストコロナを見据えた中長期的な成長資源の確保や顧客ニーズに適合するためのサービス改善(非対面・非接触)・人的生産性の向上、コスト競争力の強化に対して多く投資している。

単位:億円

	JAL2019	ANA2019	JAL2024	ANA2024
ROA	7%	4.12%	3.61%	4.4%
ROE	14.49%	10.08%	10.5%	15.04%
PER	9.02倍	12.26倍	13.35倍	9.58倍
PBR	1.35倍	1.24倍	1.4倍	1.44倍

ANAのROAがJALより低いのはANAが以前より多額の投資を行っていたためだと考えられる。ROEはどちらも10%を超え優良と言える。PERはどちらも15倍以下で割安感がある。PBRはどちらも1倍以上で将来性が期待されている。

4. 考察

JALとANA両社ともにコロナ禍に収益が大きく落ち込み赤字転落してしまった。しかし、コロナ後、劇的に回復してコロナ禍前と同様またはそれ以上の収益を計上した。この原因にはもちろん旅客需要の復活があるが、コロナ禍に認識した航空事業のみで収益を得る危険性をふまえて、航空事業以外の事業に注力することで企業全体の安全性を高めるようにしたこともその1つと考えられる。またJAL、ANA両社とも営業利益率が8-10%ほどで優良、当座比率も基本的に120%ほどで優良で短期的安全性は高く、固定長期適合率も100%を下回っていることから長期的安定性も高いと考えられる。またどちらも営業CFはプラス、投資CFはマイナス、財務CFはマイナスで優良。なおANAの方がJALより投資CF、設備投資額が多く、積極的に投資しているとわかる。

5. 航空業界全体

航空業界は現在、燃料価格の高騰、厳格化する環境法規制などの課題に直面している。これに対して今後の策として主にインバウンド需要への対応、DX化の推進、

3. ANAとの比較

2019年と2024年のJALとANAの財務を比較したものである。

単位:億円

	JAL2019	ANA2019	JAL2024	ANA2024
売上高	14872	20583	16518	20559
営業利益	1761.6	1650.19	1409.32	2079.11
当期純利益	1584.49	1416.3	1213.89	1838.2
営業利益率	11.84%	8.02%	8.53%	10.11%

全体的に2019年時点ではJALの方がANAより成績が良かったのに対し2024年では逆転している。この原因としては2019年頃ではANAの販売している座席に対して実際の予約数が少なかったためであり、2024年、コロナ後ではANAの航空業界以外の事業(機内食の販売、備品の販売等)で多くの利益を計上したためだと考えられる。

単位:億円

	JAL2019	ANA2019	JAL2024	ANA2024
当座比率	125.41%	42.81%	120.31%	121.48%
固定比率	135.66%	180.68%	178.76%	178.82%
固定長期適合比率	92.91%	99.75%	86.82%	73.94%

ANAの2019年の当座比率は42%と非常に低く、改善の余地ありで短期的安全性は非常に低いとわかる。ANAはJALより固定比率や固定長期適合率の下がり幅が大きく、ANAの方がJALより長期的安全性が高いとわかる。またどちらも固定長期適合率は100%を下回っており、まずまずの安全性だ。

単位:億円

	JAL2019	ANA2019	JAL2024	ANA2024
営業CF	2967.17	2961.48	3639.45	4206.22
投資CF	△1863.92	△3086.71	△1950.99	△3995.25
財務CF	△370.37	△464.8	△1050.31	△1360.45
フリーCF	1103.25	△125.23	1688.46	210.97
設備投資額	△2234.77	△3758.64	△2180.75	△2404.69

営業CFはコロナ禍では赤字であるものの、それ以外は本業で稼げている。投資CFにおいても営業CFのプラスの範囲内でマイナスであり、成長している。財務CFでは継続的にマイナスで借金を返済する余裕がある。フリーCFはコロナ禍以外プラスで、設備投資や借金返済、株主への返還をする余裕がある。また設備投資は主に航空機購入であり、2023年度においてはJALの新しいフラッグシップであるA350-1000型機3機やボーイング787-8型機1機、ATR42-600型機1機を導入し、ボーイング767-300型機を貨物機に改造した。

キャッシュフロー計算書全体を見ると営業CFがプラス、投資CFがマイナス、財務CFがマイナスとなっており、優良企業だと言える。

IV.損益計算書と貸借対照表をみて

	ROA	ROE	PER	PBR
2015	10.12%	19.2%	9.1倍	1.75倍
2019	7%	14.49%	9.02倍	1.31倍
2024	3.61%	10.5%	13.35倍	1.4倍

ROAは2015年以降下がり続けているが、損益計算書から営業利益率が回復していることから考えると収益性には問題なく、設備投資額が多いことを踏まえると、ROAの低下の原因の1つは先行投資による一時的な低下だと考えられる。もう1つの原因としては、保有していた外貨資産が円安によって円換算した際資産が増えたことも考えられる。ROEにおいてはコロナ禍を除くと10%を超え優良。株式資本を有効活用できている。PERは往々にして15倍以下で割安感がある。なお表には書いていないが2023年のPERが32.78倍となっているのは、コロナ禍の復活に対する期待が大きかったためと考えられる。PBRは基本的に1倍以上で将来性が期待されると考えられる。

Ⅱ.貸借対照表からわかること

【貸借対照表より】

単位:億円

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
純資産	12001	10365	9630.76	8460.67	8569.5749	9483.45
自己資本比率	49.3%	51.2%	45%	33.7%	32.4%	34.3%
流動比率	128.04%	101.35%	119.07%	159.52%	137.83%	138.72%
当座比率	125.41%	84.37%	101.72%	130.62%	121.59%	120.31%
固定比率	135.66%	155.58%	162.48%	203.22%	195.73%	178.76%
固定長期適合比率	92.91%	106.93%	96.44%	87.43%	88.25%	86.82%

自己資本比率を見るとコロナ禍前では50%前後とかなり良好な状態であるのに加えて、コロナ禍においても30%を下回ることなく非常に安定しているといえる。流動比率と当座比率を見ると、流動比率は100%を超え、理論上流動負債を返済できる。より短期における支払い能力を当座比率で見ると、コロナ禍を除くと120%を超えており、優良水準である。よって日本航空の短期的安全性は非常に高いと言える。また固定比率を見ると軒並み100%を超え、自己資本で固定資産を賄っていないとわかる。これは超高額である飛行機を多く保有する航空会社の特徴ともいえるのではないだろうか。さらに固定長期適合比率を見ると、ほぼ常に100%を下回っており、長期運用の固定資産を長期の調達のみで賄っており、長期的安全性においてはまずまずの高さであると言える。

Ⅲ.キャッシュフロー計算書からわかること

【キャッシュフロー計算書より】

単位:億円

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
営業CF	2967.17	808.57	△2195.19	△1035.45	2929.08	3639.45
投資CF	△1863.92	△2337.25	△910.12	△1737.69	△1127.66	△1950.99
財務CF	△370.37	△388.1	3886.24	3592.8	△384.65	△1050.31
フリーCF	1103.25	△1528.68	△3105.31	△2773.14	1801.422	1688.46
設備投資額	△2234.77	△2415.04	△883.08	△1613.06	△1174.88	△2180.75

親族訪問の需要増加を成長機会とし、LCC事業における2025年のEBIT目標は前年の130億円より多い200億円としている。マイル/金融・コマース事業においてはコロナ禍における劇的な利益減少を受け、航空事業に頼り切らない事業モデルの必要さを再認識し、マイレージサービスの拡充を図っている。具体的にはJAL Pay(スマートフォン決済アプリ)などの利用で日常のより多様な場面でマイルをため、スポーツ観戦やホテル宿泊などに交換するなどプライスレスで特別な体験ができるサービスを航空ヘビーユーザーはもちろん、若年層にもリーチすることで、顧客基盤を拡大し、中期的な利益増大を図っている。また、グランドハンドリング受託事業では、インバウンド需要拡大や、政府の受け入れ促進、グラハン事業拡充への機運、航空業界の多様化を成長機会に、日本へのインバウンド人流・物流を創設し、観光立国に貢献している。またエアモビリティ・MaaS事業では高齢化地域や過疎地に対して災害時も視野に入れながら、日用品を定期配送するドローン運航事業を立ち上げるなど、将来的な空飛ぶ車を視野に入れたクルマネットワークを含めたシームレスな移動を提供する「JAL MasS」を拡充するなどJALの空の安全運航に関するノウハウを生かした次世代エアモビリティの社会実装に向けた取り組みを進めている。

2. 業績

I. 損益計算書からわかること

【損益計算書より】

単位:億円

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
売上高	14872	13859	4812.25	6827.13	13755	16518
営業利益	1761.6	861.03	△3904.14	△2347.67	650.59	1409.32
当期純利益(包括)	1584.49	342.98	△2511.79	△1490.54	182.57	1213.89
営業利益率	11.84%	6.21%	-84.13%	-34.39%	4.73%	8.53%
当期純利益率	10.65%	2.47%	-52.20%	-21.83%	1.33%	7.35%

営業利益率を見るとコロナ禍以前は10%を超え、優良企業であるといえる。またコロナ禍後徐々に回復しつつある。さらに、純利益率においても7%台まで回復しており高水準である。

社会探究ゼミ

JALとこれからの航空業界

高二A 山成 俊輔

1. JALの事業

JALの事業は主にフルサービスキャリア（国際線・国内線）、貨物郵便、LCC、マイルインフラがある。これらを売上高構成比にするとフルサービスキャリア71%（国際線37.7%・国内線33.3%）、貨物郵便8.1%、LCC4.1%、マイルインフラ15.8%である（2023年度）（残りの1%はその他収入）。JALの国際線はコードシェア便も含めると386地点378都市に就航している。また旺盛なインバウンド需要もあってか、2024年3月期決算ではコロナ禍前の2019年度を2659億円上回る売上収益を記録した。さらに2024年には国際線の新しいフラッグシップであるA350-1000型機を導入するなど好調さがうかがえる。国内線では64地点58都市に就航している。また2024年の取締役会でA350-900型機21機、A321neo11機、ボーイング787-9型機10機を導入することを発表し、国際線における北米・アジア・インド路線の機材を拡充することや、導入から年数が経過した飛行機を置き換えることが始められている。貨物事業ではボーイング767-300ER（日本-中国間）やヤマトホールディングスと協業したA321XLR（国内）の貨物型を導入するなど「2024年問題」などに対処するために「持続可能な物流ネットワーク」を構築するとともに、国際エクスプレス・eコマース以上の拡大、国内においては医薬品、地域産品、生鮮品の輸送量拡大、トラックからのモーダルシフトを成長機会としている。フルサービスキャリア事業においては、旺盛なインバウンド需要、北米・アジア間の乗継需要、提携、コードシェアによる路線網の拡充、技術進歩による生産性の向上を成長機会としている。LCC事業においては現在、JALは中国方面向けのSPRING JAPANと北米、ハワイ、アジア路線を主要とするZIPAIR、国内線、近距離アジア路線を主とするJetstarを運航している。各社は新たな路線を構築してインバウンド需要を確実に取り込むことや、在日外国人増加による友人

の国が平等に発言権を持つ枠組みを作り上げることも重要である。特定の国が他国に対して優位に立つのではなく、平等なパートナーシップのもとで協力し合うことが現代のアジア主義の成功のものとなると思われる。

毛沢東の思想を現代に適用し、アジア主義を成立させるためにはこれらの要素を踏まえたアプローチが必要と思われる。経済的な自立と平等な協力、社会的公正と環境保護、文化的多様性の尊重、そして地域全体での国際的な連帯を実現することがアジア主義を現代において実現させるための一番の近道となるだろう。

参考文献

『毛沢東思想の呪縛—中国共産党思想史の断面』(高橋亨・振学出版1990)

『アジア主義—その先の近代へ』(中島岳志・潮出版社2014)

このためにはアジア全体での技術協力が欠かせず、特にデジタル技術のインフラ整備や教育の拡充を通じてアジア全体がこの新しい時代の技術革新の恩恵を享受できるようにすることが求められる。アジアの各国が自国の技術力や経済力に応じて協力し、デジタル格差の是正を目指すことが今後のアジア主義の基盤となると思われる。

また、気候変動への対応もアジア主義を現代に適用する上で重要な課題の一つとして上がってきている。気候変動は特にアジアの発展途上国に大きな影響を与えており、災害の頻発や農業生産への悪影響が深刻化してきている。

毛沢東が推進したような国家的な大規模プロジェクトの精神を引き継ぎ、アジア全体で協力して環境保護や持続可能な発展を目指す枠組みを構築することが求められる。

7. まとめ:毛沢東思想を参考にした現代アジア主義の成立条件

毛沢東の反帝国主義、社会的公正、国際連帯の思想を現代に応用し、アジア主義を成立させるためにはいくつかの重要な要素が求められる。

まず第一に、アジア諸国は外部の経済的・政治的な圧力からの独立を確立し、地域内での協力を強化する必要がある。これによりアジアは自主的な経済運営を行い、グローバル市場の中でより平等な立場を確保することが可能となり、特に地域内の貿易協定や共同プロジェクトを通じて経済的自立を目指すことが求められる。

第二に、毛沢東が強調した社会的公正の理念を踏まえアジア全体での貧困問題や格差の是正に取り組むことが重要だ。技術移転や教育の支援を通じて発展途上国が自立し、持続可能な成長を実現できるようにするための枠組みを構築すべきであり、また環境問題への取り組みも社会的公正の一環として重視されるべき課題だ。

さらに、文化的多様性の尊重と相互理解の促進がアジア主義の成功には欠かせないと思われる。アジアは多様な文化や宗教を持つ地域であり、その多様性を尊重しながらも共通の目標に向けた協力を強化することが求められ、文化交流や教育プログラムを通じてアジア諸国の相互理解を深め、連帯の基盤を築くことが求められる。

最後に、アジアが国際社会において一体となって影響力を発揮するためには全て

してアジア全体で取り組むことが不可欠であると考えている。例えば、再生可能エネルギーの導入やエネルギー効率の向上を通じて持続可能な発展を目指すことが近年考えられていて、これによりアジア諸国は環境への負荷を減らしながら経済成長を実現することができる。

また、地域内での技術協力や資源管理の共有を通じて環境問題への対応を強化することも重要だ。毛沢東が中国で行った大規模な社会変革のように、現代においてもアジア全体での共同の努力が求められてきている。

5. 国際的な連帯国とアジアのリーダーシップ

毛沢東はアジアの中で中国がリーダーシップを取ることを強調したが、現代のアジア主義を成立させるためには特定の国が他国に対して優位に立つのではなく全ての国が平等な立場で連帯と協力のもとで進むことが重要である。現代の国際情勢においてアジアは経済や技術、政治的影響力の面で世界的な存在感を増している一方、内部では格差や利害対立が残されている。毛沢東が提唱したような「平等な国際協力」に基づき、全ての国が共通の目標に向けて協力する枠組みを作ることが現代のアジア主義を発展させるための鍵となると思われる。例えば中国やインド、日本といった大国だけでなく、東南アジアや南アジアの小国も含めてアジア全体が地域の問題解決に向けて意見を交わし合意を形成する場を増やすことが必要である。これによってアジア諸国は国際舞台で一体となり他の大国に依存せずに自らの利益を守り、推進していくことが可能になるだろう。

6. 現代の課題に対応する新しいアジア主義

現代のアジア主義を成立させるためには、グローバル化の進展と技術革新に対応するための新たな枠組みを構築する必要がある。

デジタル技術や人工知能の進展により経済や社会の構造が急速に変化しており、これに伴って労働市場の不安定化やデジタル格差といった新たな課題が浮上している。毛沢東は常に社会的公正を重視したが、現代においてはこれをデジタル時代に適応させ技術の恩恵が全ての国と人々に平等に行き渡るような枠組みが必要だ。

また環境問題への取り組みも重要となっており、持続可能な発展を実現するためには資源の効率的な利用や環境保護を重視し、長期的な視野での成長を目指すことが不可欠となっている。

毛沢東が中国で実施した「大衆路線」や「農村を基盤とする社会主義建設」のように、地域全体が恩恵を受ける経済モデルを構築することが現代のアジア主義においても参考になると思われる。特に都市部と農村部、先進国と発展途上国の格差を縮小し全ての人々が平等に発展の影響を受けることができる仕組みを作ることが求められている。

3. 文化的多様性の尊重と共通の価値観の確立

毛沢東の思想には中国の伝統文化を重視する一方で、時にそれを批判し刷新しようとする側面があり、彼は中国の古い制度や習慣が封建的であるとして批判したが一方で新しい価値観を育てようとしていた。この点は現代のアジア主義にも重要な影響を与える可能性がある。アジアは文化的に非常に多様な地域であり、それぞれの国が独自の歴史、宗教、伝統を持っており、この文化的多様性を尊重しながら共通の価値観や目標を持つことがアジア主義を成立させる上で重要である。

アジアの共通の目標としては反帝国主義、社会的公正や、持続可能な発展、平和的共存が挙げられるが、これを実現するためには各国が文化的な相違を乗り越えて協力する必要がある。例えば、文化交流や教育プログラムを通じて、アジア諸国の相互理解を深めることが重要であり、これにより異なる文化や価値観を持つ国々が共通の目標に向かって協力し合う基盤を作ることができそう。特に、若い世代が他国の文化や歴史を理解することは、将来の地域連帯を強化する上で重要な役割を果たすだろう。

4. 持続可能な発展と環境問題への対応

毛沢東の時代には環境問題はそれほど大きな課題として認識されていなかったが、現代のアジアにおいては気候変動や環境汚染が深刻な問題となってきている。

アジアは急速な工業化をした地域であり、その結果多くの国で環境破壊や資源の枯渇が進行しているため、現代のアジア主義を成立させるためには環境問題に対

洋の植民地主義から解放され、独立した存在として連帯することを重視した。この反帝国主義の姿勢を現代に適用する際には、現在の国際社会における経済的・政治的依存からの脱却を目指すべきだが、今日のアジア諸国は形式的に独立しているだけで多くの国はグローバルな経済構造や国際的な金融機関に依存している状態だ。この依存は特に発展途上国において顕著で、貧困や格差の原因となっており、現代におけるアジア主義を成立させるためにはアジア諸国が自主的な経済運営を行い、グローバル市場の圧力に対抗できる枠組みを構築することが求められる。例えば、地域内での貿易拡大や金融機構の強化を通じてアジア諸国が外部の経済的影響から独立し、持続可能な成長を実現することが必要である。この点において、ASEANやRCEPといった地域の経済協力が、アジア全体の連帯と経済的自立に向けたモデルとなり得るが、これらの組織はアジア諸国が相互に依存しながらも、外部の大国やグローバル企業の影響を最小限に抑えることを目指すための枠組みを提供している。毛沢東が強調したように、アジア諸国がそれぞれの独立性を保持しつつ、協力して帝国主義的な圧力に対抗することが現代のアジア主義の成立においても不可欠である。

2. 社会的公正と経済格差の是正

毛沢東は中国国内においても、また国際的にも社会的公正と平等を追求していた。彼は資本主義的な搾取に反対し、貧困層や労働者の権利を守ることを重視しており、この姿勢は現代のアジア主義にも重要な示唆を与えている。現在のアジアは急速な経済成長を遂げた国々もあるが、先程も言った通り依然として深刻な経済格差が存在しており、中国、インド、日本、韓国などの経済大国がある一方でバングラデシュやカンボジアのような発展途上国が存在し、地域全体での経済的な不均衡が問題となってあげられている。毛沢東の社会的公正の理念を現代に活かすためには、地域内での格差を是正し、貧困層を支援するための政策が不可欠だ。例えば技術移転や教育支援を通じて発展途上国が自立し、持続可能な経済発展を遂げるための基盤を整えることが考えられ、地域内の経済大国が中心となって技術革新やインフラ整備に対する投資を行い貧困層や発展途上国を支援することで、アジア全体が一体となって発展できる体制を築くことが必要だ。

社会探究ゼミ

現代に通じるアジア主義

高二A 飯田 一 摩

0. Prolog

まずはアジア主義についてどのようなものなのかを調べてみた。アジア主義とは日本と他のアジア諸国との関係や、世界でのアジアの立ち位置などについての思想や運動のことを総称しているものである。アジアの様々な国や民族などが団結することによって西洋列強に対抗することが出来ると言う考えがアジア主義の概要である。主に帝国主義や植民地支配を拒むことを意味合いとして強く含んでいる。

アジア主義にはいくつかの側面があり、まず政治的なところを見ていくと先程も言った通りアジア諸国が協力し合い共同体を作ることによって欧米の干渉や植民地主義に対抗するという考えがあった。次に文化的な側面で見るとアジア諸国が共有している文化的、宗教的、または歴史的な共通点を見つけ出し、それを元に連携を深めていこうとする主張があった。最後に経済的な側面としてはアジア諸国の経済的な独立や発展を目指すための協力を促すもので、欧米の経済的な支配に抵抗するために貿易や産業の協力が提案された。

以下、毛沢東の思想をもとに現代にアジア主義を復活させる方法を考察したい。毛沢東のアジア主義に対する考え方を現代に適用し、アジア主義を成立させるためには彼の反帝国主義的視点、社会的公正を求める姿勢、そして国際的な連帯を重視する姿勢を参考にすることが重要である。現代のアジア主義を構築するためには地域内の経済的・社会的格差の是正、持続可能な発展、地域的な自立や文化的多様性の尊重の他、国際協力の促進などといった多角的な視点から取り組む必要があると思われる。

1. アジア主義への批判的な立場

毛沢東の思想の中心には、帝国主義に対する反対があった。彼はアジア諸国が西

南 窓 六十三号

編集 高校 大橋美輝 中学 服部聡真
文化委員会

題字 石田 泉城

発行者 南山^{高等}中学校男子部生徒自治会

発行日 二〇二五年 四月 三〇日

発行所 (〒四六六一〇八三八)名古屋市中区五軒家町六
TEL(〇五二)八三一―六四五五

印刷 名古屋市中種区千種二―一―二八
株式会社ウエルオン